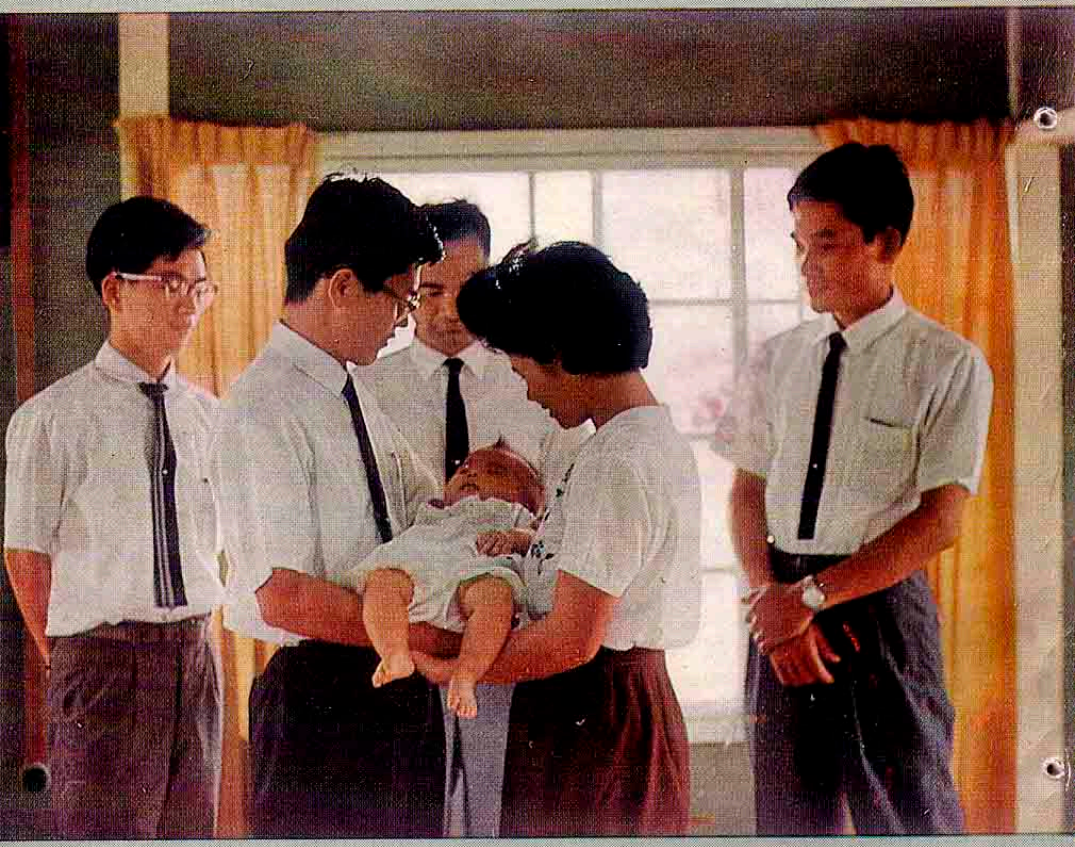
聖徒の道

11

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第8巻第11号　1964年11月1日発行

SEITO-NO-MICHI



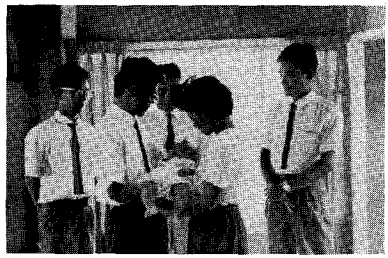
聖徒の道

第8巻
第11号

1964年 11月号

もくじ

予言者のことば……590
伝道部長メッセージ……594
質疑応答……598
秋季東中央地方部大会……602
系図のページ……615
伝道部扶助協会会長メッセージ……617
扶助協会レッスン……618
文学としての聖書……628
支部だより……632
伝道本部だより……635



<長嶺顕正兄弟（沖縄地方部長）
の幼児の祝福>

大管長　デビド・O・マッケイ

人間のもつ最も貴い財産はその人の家庭である。家族のきづなは死線を越えて永久につづくという神聖な保証の中に私は霊感を見出す。神権の権能による「結び固め」によって愛する者たちが結ばれるとき、それは愛の如く永久に霊の如く限りなくつずくのである

予言者のことば

わたしたちを救いうる名は これを別にしては 天下のだれにも与えられていない

大管長　デビド・O・マッケイ

今年の早いころ、あなたがたのうち多くの人々は、或るステーキ部の系図の集会が土曜の晩に開かれたときに上映された「ある家族の関心事」と題する映画を見た。そのとき、インプルーヴメント・エラ誌を編集しているわたしの同僚は、その映画の結論についてわたしの言ったことを印刷に付したいと言った。わたしはそれらの考えを今あなたがたにも見ていただく。わたしは次のように言った。

「福音活動の最も大切な面の一つは神殿と結びついている。

「神殿で行なわれる身代りの儀式は、聡明な不断の系図探求にその源を仰いでいる。

「系図の探求は単に神権者の為すべき務めであるばかりでなく、あらゆる家族の責任である。

「もしも（系図の探求が）良心的に行なわれるならば、それは家族の一致に力を与え、われわれに「救いの計画」をはっきり思い浮べさせる。

「それであるから、われわれはキリストの教会の会員としてまた一つの民として「シオンの山の救い手」となる資格をつけるように全力をつくしてはたらこうではないか。

キリストの教会の会員として、また一つの民として、なぜわれわれは第一に系図の探求のために、次に神殿のために自分たちの時間と財産とを費やすのであるか。

あなたがたは或るときユダヤ人の一指導者（ニコデモ）が、神の国に入る正しい方法についてイエスにたずねたことを思い出すにちがいない。彼はイエスが「神からこられた教師であることを知って」いたので、権威ある答えをすることができると信じていた。その忘れてはならない福音に関する会話の詳細はだれにもわかっていないが、次の意味深いイエスのことばによってその会話の主旨を見抜くことができる。イエスは「よくよ

くあなたに言っておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」とおっしゃった（ヨハネによる福音書三〇五）。ニコデモがそのときいぶかって、その完全な意義をとらえることができなかったようであったとは言え、そのことばは明瞭で、力強く、かつわかりやすいものであった。

また同じところ（エルサレムの都）で別のときに大勢のユダヤ人が集って、イエスは神の子であり、復活なさった「人類の救い主」であるという、一使徒（ペテロ）のあかしに耳を傾けていた。ペテロが真理を語っていると確信するようになった者がその集りの中に多くいたが、「永遠の救い」の源である御方が当時彼らの住んでいる都の中で十字架にかけられたことと、彼らと彼らの同胞が救いに関するその御方の教えを捨てたことを悟って「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか」と彼らは言った（使徒行伝二〇三十七）。これは明らかに約二年前にユダヤ人の指導者（ニコデモ）がイエスにたずねたと同じ大切な質問である。使徒（ペテロ）の答えが、ニコデモに対するイエスの答えと同じように、救いに関する同じ方法を指定していることはまことに意義が深い。「悔い改めなさい。そしてあなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい」（使徒行伝二〇三十八）。

さてここに質問がある。悔い改めと水ならびに聖霊によるバプテスマとが救いに欠くことのできないものであることは本当である。それならば、これまでに福音をかって聞いたことのない無数の人々、従って悔い改めをする機会もバプテスマを受ける機会もなかった無数の人々はどうして神の国へ入るであろうか。たしかに愛の神は、もしも神の子らの大多数が神の国へ入らずに、無知か悲惨か地獄の中に永遠に住むならばそのことをけっして満足にお思いにならぬにちがいない。（福音を聞く機会を持たなかったために神の子らの大多数が地獄におちる）というような考えは知性のある人々に反感を起させる。これに反して、もしも福音を聞かずに死んだこれら無数の人々が、福音の律法にも儀式にも従がわずに、神の国に入ることができるならば、キリストがニコデモにおっしゃったことばは、だれにもあてはまる永遠の真理ではなく、またペンテコステの日にペテロがはっきりと「この約束はわれらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたと、あなたがたの子らと遠くの者一同とに与えられているのである」と言っていても（使徒行伝二〇三十九）、それはだれにも、どこでも、またいつでもあてはまる（真理）ではない。

さて、イエス・キリストの福音には、その福音の律法と儀式とに従がうことによって「すべての人類」が救われ得ると教えてある。また「すべて」ということばは「えらばれた少数」だけを含む「すべて」という意味に限定されてはいない。それは「愛ある父なる神」の子の一人のこらずが（救われ得る）という意味である。しかも、これまで無数の人々が福音の計画というものがあることを聞いたこともなしに死んでいる。

あらゆる国の人々とあらゆる人種の人々とは、神のめぐみを受ける権利があると正しく主張することができる。「救いの計画」はただ一つだけあるのであるから、あの「無数の人々」が

聞いて受け入れることも捨てることもできる特権をもつことができるような或る備えがたしかにしてあるにちがいない。

「救い主」は殺されてから「獄に捕われている霊どものところへ下って行き、宣べ伝えることをされた。これらの霊というのは、むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられたのに従がわなかった者どものことである」とペテロは言っている（ペテロの第一の手紙三〇十九―二十）。このようにして、キリストが死人にさえ福音を宣べ伝えたもうたのは「彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである」（ペテロの第一の手紙四〇六）。

もしもキリストが一度福音をすてた人々にまた福音を宣べ伝えたもうなら、福音を一度も聞いたことのない人々は福音を聞く機会を正当にもつはずである。

「救い主」が人々の間で教えを授けておいでになった当時に、この死者に対する救いの原理がわかっていただけでなく、神の国に入るためにはバプテスマを受けなければならないとキリストがおっしゃったので、死んだ者たちもバプテスマを受ける必要のあることもわかっていた。

それで（福音を聞かずに）死んだ者たちはこの世に生きているうちにバプテスマの儀式を受けなかったから、今代理の者が彼らにバプテスマを施こすことが正しいと思われる。

パウロは復活を支持する議論の中で、死者のバプテスマが当時行なわれていたことについて次のように言っている。「そうでないとすると、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者がまったくよみがえらないとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか」

永遠の結びつき
佐藤竜猪兄弟（中央）

東中央地方部長
今井一男兄弟　〈大会で〉

（コリント人への第一の手紙十五〇二十九）。

啓示の光を受けていない、にせのクリスチャンの世界の人々は、この簡単な聖句の意味につまずいて、少なからざる数の解説者は真の意味を（まちがって解釈したことを）弁明しようとした。しかしながら文脈から見ると、使徒たちの時代に死者のためのバプテスマ、すなわち死んだ人々（罪に死んだのではなくて、実際に死んでこの世を去った人々）のために、生きている人々が代理となって水に沈められる習わしのあったことが明らかである。

千八百三十六年四月三日、カートランドの神殿で予言者エライジャがジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリにあらわれ、生きている者が死んだ者のためにするはたらきを執り行なうことを許す「神権の権能」を二人にわたした。これらの「権能の鍵」が回復されてマラキの予言が実現したのであった。

「見よ、主の大いなる恐るべき日がくる前に、わたしは予言者エリヤ（エライジャ）をあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国をうつことのないようにするためである」（マラキ書四〇五・六）。

宣べ伝えられる福音を聞いて、福音の儀式に従がわねばならぬことを悟った霊界の父たち（先祖たち）が、子ら（子孫の者たち）が現界に於て父たち（先祖たち）のために福音の儀式を執り行なっていることを知るとき、父（先祖）の心と子供たち（子孫）の心とは互いに向き合うのである。

すべてこのような「死者のためのはたらき（儀式）」は、そのような目的のために献堂され聖別された上に、正しい記録がつけられ、すべてのものが聖いと考えられる神殿の中で執り行なわれる。

福音のはたらきの中にあるこの大切な面を遂行する責任を背負って、末日聖徒はこれまでいくつも神殿を建ててきている。この偉大な目的のために、数多くの美しい多大の費用を要した大建築物がアメリカ合衆国、カナダ、ヨーロッパおよび海の島々に建てられ献堂されている。

死者に対するこの救いの原理の中に、福音のもつ救いの力の広大なことと「救い主」の教えが全人類に及ぶことがあらわれている。まことに「わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていない」（使徒行伝四〇十二）。「いと高き神」の神権によって行なわれるすべての儀式は愛の如く永遠であり、生命の如く広大にして永続し、この儀式に従がうことによって全人類は「生けるも死ねるも」神の国へ入って永遠に住まうことができるのである。

伝道部長メッセージ

近ごろ或る宣教師が私に次のような話をしました。「あの長老が転勤の命を受けたとき、彼はかなり長い距離の汽車旅行をひとりきりでしなくてはなりませんでした。彼が席におちついてからくつろぎ始めたとき、次のような考えが頭にひらめきました。『今だれもわたしと一しょに居ない。わたしには同僚が居ない。またわたしを知っている人はだれ一人この汽車にのっていない。ここに居る人たちはわたしが宣教師であること、またはわたしがモルモンであることを知ってはいない。今が規則をやぶるか、わたしの好きなようにふるまうよい機会だろう。何をしたってわかるものか！』もちろんその宣教師は、わたしは何も宣教師にふさわしくないことはしませんでした（そんな考えが頭をかすめただけです）と申しましたが、彼よりも忠実でない或る人にとってはそれがよい機会だと思えたことでしょう。さきのような考えがあの宣教師の頭をかすめてからまもなく、二人の人が客車の中を通ってやってきましたが彼の席のところで足をとめました。そしてその一人が言いました「あなたは宣教師ではないですか。あなたは田中さんの教会から来たんではないですか」。その宣教師は、その通りですと答えてから、あなたたちはどうしてわかりましたかとききました。すると二人は言いました「一人の宣教師が転勤になって今日汽車にのっているでしょうと、わたしたちの友だちの田中さんからきいたからです。だから、わたしたちは一目であなたが田中さんの言った宣教師だとわかりました」と。しかし、この二人は教会の会員ではありませんでした。次の停車場へ汽車がつくと、わたしたちは今夜この町でとまりますと言って汽車をおりて行きました。その宣教師は車をのりかえて旅行

伝道部長
ダワエン・N・アンダーセン

をつづけましたが、またまたあの考えが胸にひらめきました「今度はほんとうにひとりきりだ。わたしを知っている者はだれひとり乗っていない」。ところが、そのあくる日（目的地の支部へついて）新任地の支部で席についていると、一人の会員が近よってきて言いました「あの、あなたはきのう汽車でここへ来ませんでしたか。わたしとわたしの友だちは二人であなたに会いました。わたしたちはずっと同じ列車で旅行していました」。その宣教師は自分が宣教師らしくふるまったことをほんとうに感謝をしたことでしょう。

たしかにこの話の語っている教訓ははっきりしているが、それよりももっと深い意味があります。あの列車に宣教師を実際に見たことのある人がひとりも乗っていなかったとしても（もし宣教師らしからぬ行為をしたら）、まわりの人々にどのような姿を見せているのか彼にはわからなかったであろう（がほかの人々にはわかっていました）。それで、もしも彼が規則をやぶる方を選んだなら、主はひじょうに失望なさったことでありましょう。主は彼が選ばれたしもべであることをご存じであり、満足にキリストを代表することを期待しておいでになります。これと同じように、キリストはわたくしたちが、キリストのまことの教会の会員として、キリストを正しく代表するように期待しておいでになります。わたくしたちがそれを知っていても知らなくても、わたしたち一人一人は自分たちの交じわる人々の前に「モルモン教」の映像（すがた）をえがいているのでありますが、たまたま交じわる人々の前に、それを知らずに（モルモン教の）映像（すがた）をえがくことがきわめてたびたびあります。

モルモン教が有名であるのは、その会員が互いに誠実であり信頼ができるからであります。まことにわたしたちは実際に互いに世話をし、共にはたらき、互いのさいわいを心にかけているので、いろいろなことに「かわったところのある妙な」人々であるという「レッテル」をはられています。主は「汝らひとつとなれ。もしひとつとならずば、汝らはわがものにあらず」（教義と聖約三十八〇二十七）とお言いになりました。実際教会が一致協力と愛とにむかって進んでいることをわたくしはほこりに思っています。しかし、わたくしは、本伝道部の中の聖徒たちの間には、明らかに一致協力に欠けている人々のあることを見てひじょうに憂いています。現在その人々の言葉や行ないにあらわれていることは、わたくしたちが一致協力をしていないことと愛を以て共にはたらいていないことを示し

ています。それで、わたくしは今「悪を言うな」という讃美歌の歌詞を思い浮べています。

讃美歌　第三十七

一、悪を言うな人に　善きことを語れ　聞きしことみなを
　語るはいやしき　愛をもてえらび　よきたねをまきて
　わずかのよきこと　つとめて語らん
二、人のとがゆるす　ひろき心たまえ　そのとがを言えば
　ほこりはきずつく　人を高く見て　己れを高めん
　善きことさがして　つとめて語らん
三、己れのごとくに　人のとがゆるせ　もしとがを見ても
　人には知らすな　この世は短かし　しばしこの間を
　すべてのよきこと　つとめて語らん

ある人が言ったことがあります「わたしたちは福音を熱愛する。しかしお互いを熱愛するわけではない」と。またある人が批判して言いました「人々と一しょにはたらかなくてよいなら、この教会はほんとにすばらしいのだが」。それにもかかわらず、主が「汝らひとつとなれ。もしひとつとならずば、汝らはわがものにあらず」とお言いになったことばの意味は、人々と一しょにはたらくときについてであります。わたくしたち一人一人は、相共にはたらくこと、互いのちがいを受け入れること、また「救い主」が「自分自身のようにとなり人を愛せよ」と勧告なさったとおりにすることを学ばなくてはなりません。「自分自身のようにとなり人を愛せよ」このことばはやさしいように思われても、実際に行なおうとすると一層困難になります。あなたのとなり人や、同僚にあいさつをしたり、口さきだけで親しくしたりすることと、その人の福祉（または教会の福祉）に心がひかれて必要ならば喜んで時と金と心とをささげるようになることとには大きなちがいがあります。あなたが人々のためにすることのできる最も寛大なこととは、自らを与えることであります。主はわたくしたちが自分のものと能力とをすべて分け与えることを望んでいらっしゃいます。また主はわたくしたちが愛と強力な一致とをあらわすことを望んでいらっしゃいます。

わたくしたちは人々をあるがままに受け入れることと、その人々がどのようになろうとその人々を愛することとを学ばなくてはなりません。それからわたくしたちは、すべて主のみこころのとおりになるようにその人々を助けるのが、わたくしたちの特権であると思わなくてはなりません。わたくしたちは人々のうわさをしてはなりません。またその人たちが手に任されたプログラムを遂行しようとしているとき、その人たちを支持することをやめてはなりません。

この伝道部の教会はたいへんすばらしい将来をもっています。わたくしが考えるのに、それは花ならば満開になりかけて居て、全アジヤの模範になろうとしています。教会の指導者の方々は、今までにないほど一心になってはたらいて奉仕をして居られます。今わたくしたちは、教会の各支部が、毎月すばらしい新会員をほんとうのモルモンにすることができるようにととのえています。わたくしたちは、各支部の会員たちが愛と親切と協力一致とを示してイエス・キリストの教会を正しくあらわすように望んでいます。

ブリガム・ヤング大管長はかって次のように言われました「この教会の始めに当り、教会は将来大いに伸び、栄え、拡大するが、福音が地上の国々の間に伸びて行くに比例してサタンの力も増大してくるという啓示を受けた」。

兄弟姉妹たちよ。

わが教会はこの国で向上し、栄え、拡大し始めていますが、サタンはその成長をさまたげるために何でもするにちがいありません。サタンの使う最も力強い道具は舌であって、現在建ちかけているものを（「うわさ」によって）人々にとりこわさせようとしています。かってジョセフ・スミスは最初の扶助協会の姉妹たちに警告して次のように言いました。「舌をつつしめ。舌は始末におえない器官であるから」と。これは男にも女にもよい忠告であります。わたくしは、サタンをわたくしたちの中に居らせないように心から祈ります。わたくしたちは一致協力しなければいけません。「協力すれば立つが、分裂すれば倒れる」ということばは、この地上にある神の教会の子らの中ではまことに真理であるからであります。わたくしたちはみなこのすばらしい国の人々の前に「モルモン教」の映像（すがた）を見せているのであります。「モルモン教」はいつも一致協力と愛にむかって進んできました。この名声をほかの人々に見失なわせないようにしましょう。名前の知られた人々は現在会員の行動を見守って居ます。もしも人々に見せる「モルモン数」のすがたが不一致とかげ口のすがたであったなら、この人たちが教会を信じている信用はすっかりこわれるにちがいありません。人々は、教会の教えよりはむしろその会員（の言行）によって教会の正邪を判断することがきわめてしばしばあります。まだ「生命と救い」のうるわしい諸原則がわかっていない人々のために、真の「モルモン教」のすがた、すなわち愛と一致協力とのすがたを画いてみせようではありませんか。「主のみわざが行えるようにするためにあなたにできることこそ、ほんとうに、それが主のみわざである」ことを忘れないでください。わたくしたちが建設し、一致協力し、強めるときにわたくしたちはこの偉大な仕事の一要素になっているのであります。

答応疑質

復活のとき人間はどのような状態で復活するのか

解答者
ジョセフ・フィールディング・スミス長老
十二使徒会会長

<復活せるイエス>

質問

人間は死んだ時の年齢と同じ年齢の姿で復活しますか。墓の中では成長しませんから、幼くて死んだ幼児は、幼児のまま復活することがわかっていますが、ある人は三十才の、ある人は八十才の、ある人は百才の姿で復活をするでしょうか。

解答

復活のときの個人個人の姿について人が心配するのは何の理由もないことである。肉体に関するかぎり死は「清め」の作用をもっている。復活に際して老年の姿は消えうせ、男盛り女盛りの活気を有する体が回復されると信ずる根拠をわれわれはもっている。墓の中には成長がないから、幼児は幼児のまま復活するであ

ろう。しかし、幼児は成長をつずけて、ついに彼らの霊の有する完全な姿に達するにちがいない。これに反することは何によらず矛盾をしているであろう。われわれの体が回復されるとき、その体は男盛り女盛りの活気に満ちた姿をしているにちがいない。肉体的の弱点はすべて墓の後（うしろ）にのこして復活をするからである。アミュレクがアモナイハの民に語ったとき、彼は復活に関するこのことを次のようなことばで明らかに語った。

「また神の御子はその民の罪を贖うためにこの世に降臨し、その名を信ずるすべての者の罪とがを負いたもう。このような人たちは永遠の生命を受ける者であって、そのほかには一人も救いを与えられない。

「従って、悪人は神の子による罪の贖いがなかったと同じような有様であって、ただ一つ死の縄目だけは解かれるのである。ごらんあらゆる人はみな死から復活して神の御前に立ち、それぞれの行いに応じて裁判を受ける日がくる。

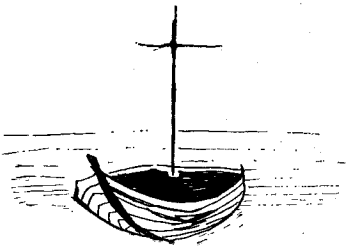
「世には肉体の死と名づける死があるが、キリストの死によって肉体の死の縄目が解かれあらゆる人がこの肉体の死から復活することができる。

「ここにおいて霊と体とは再び合して完全な形となり、手足も骨の関接も私たちが今持っている本来の形に返り、私たちが今持っているような知識を保ち、明らかに自分が持っている一切の罪を思いめぐらしてそのまま神の御前に引き出されるのである。

「この復活はあらゆる人が全部受けるのであって、老若男女の区別なく悪人と善人とを問わず奴隷と自由人とのへだてなく、一すじの髪の毛さえも失なわれずに、、総身のいずれの部分もあたかも今の世にあるようになり、完全の形にかえるのである。それから後で、その行いの善し悪しに応じて裁判を受けるため、一つの永遠の神会を為すお方、すなわち御子なるキリスト父なる神と聖霊との法廷に召される。

「今私は肉体の死と肉体の復活とについてあなたたちに話したが、この死なくてはならない肉体は不死不滅の体となって死からよみがえる。すなわち、第一の死から復活して後に永遠の生命を受けるのである。それであるから、人はもう死ぬはずがない。人の霊は体と合していつまでも再び離れない。そしてこのように相合したものはみな霊性体となって不滅となり再び朽ちることがないのである」（アルマ書十一〇四十—四十五）。

以上は救い主イエス・キリストのめぐみによって、体と霊とが回復することに関して、ひじょうに明瞭な知識を与えることばである。この偉大な真理は、主なる神の与えたもう



たあらゆる誡命に従がわねばならぬことを、あらわる人々の心に銘じさせ、完全なる福音の中に含まれるあらゆる誓約と義務とに忠実であることを促がすはずである。またあらゆる人間は「永遠の父なる神」のみこころに厳密に従って生活をしようとする動機となるはずである。また神の御前から追い出されて「永遠の父なる神」の律法に故意に背く者たちのために備えてある罰を受ける者となることは、あらゆる人々の心に感銘を与え、あらゆる者に義しく生きようとする感動を与えるはずである。万人は復活するのであるが、死者がよみがえってくるために定められたいろいろの時がある。※きにおける（体の）奇形について次のように言った。

※すでに一回の大いなる復活が人類にやってきた。これは「神の御子の復活」のときにあった。このほかの復活がこれからさきに起るはずであるが、万人が同時に復活するわけではない。しかしこの問題は今論ずる必要はない。ここに強調する偉大な真理というのは、結局一人のこらずの人が復活をするということである。さらに、肉体がその本来の形に回復されるということである。

ヒーバー・J・グラント大管長の母レーチェル・グラント姉妹の葬儀に際し、ジョセフ・F・スミス大管長は復活のとき

「肉体の奇形はとり除かれ、肉体の欠陥は排除されてすべての人は各々の霊にそなわる完全さ、神が始めに設計したもうた完全さに達するにちがいない。神の目的というのは神の世つぎとなり、イエス・キリストと共に神の世つぎとなるように生まれた神の子らである人間が、完全になるように神が道をそなえたもうた律法を守ることによって霊も体も共に完全の域に到達することである。それであるから、わたしたちがよく知っていた、またわたしたちが永年の間親しくしていたウイリヤム・C・ステインス兄弟（に会う時）を待ちのぞんでいる。わたしはここに（眠って）居られるアーント・レーチェルに生涯親しくしていて知らなかった時がなかったと同じように、わたしはステインス兄弟と一生涯親しくしていた。わたしはステインス兄弟が（復活して）回復される日を待ちのぞんでいる。彼は（そのとき）わたしたちが知っていた不具のウイリヤム・C・ステインスではなくて、完全な形に回復されているにちがいない。すなわち彼の四肢、関接、あらゆる体の部分は完全な形に回復されているにちがいない。これこそ予言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示の中にあるわたしたちに授けられた神の律法でありことばである。今わたしがとくに言いたいと考えていることは次の通りである。すなわち、このさきわたしたちの母や叔母や姉妹や今ここにその肉体を横たえて居られるが、その霊はそれを授けた神のところへ昇られた貴い婦人にわたしたちが会うときには、その霊が再び戻ってこの肉体と再び結合するときには完全なアーント・レーチェルが居られるにちがいない。神がそなえたもうている回復の律法によって彼女は回復して完全となるにちがいない。その完全とは彼女の青春時代の完全、彼女のかがやく美しさと本質との完全であって、彼女の復活体はついに完全なままこの世で持っていた霊の姿そ

のままをとるにちがいない。このようにしてわたしたちは、栄光を得て贖なわれ高められ完全にされたアーント・レーチェル、母、姉妹、聖徒および生ける神の娘たちと会うにちがいない。このとき彼女の本体は少しも変っていない、幼児が成長して一人前のおとなになってもなおその本体は同じことであるように」（ジョセフ・F・スミス著「福音の教義」二十三―二十四頁参照）。

もし個人個人が、この人の世に生きている人類の中に多く発見されるすべての不具と弱点と不完全とをもって復活をするならば「救い」ということは完全ではない。わたしたちは、人間の霊とすべてその他の生物の霊とが、霊界で完全な形をしていることを信ずるあらゆる理由をもっている。死ぬべき体にひじょうに多く発見される不完全が、創造のときに設計されていた欠陥であると考えることはおそろしい想像の誇張であると言えよう。さらに、生れつき盲目であった男について主イエスが明らかにしたもうたように、それは永遠に変らない状態ではなかった。「神の子」の持つ偉大な信仰の力によって、イエスはその力のことばを出して不具や盲目をいやし、つんぼに言を聞く賜を与えることができた。体に欠陥のある、もしくは不具の子供が生れるときには、これが罰ではないか、または生れぬ前からそなわっていたことではないかという質問を度々受ける。そうではない！ これらの害悪はすべて肉体の害悪であるか、もしくはその子供が生れぬ前に（胎内で）受けた「死ぬべき身の」状態による欠陥であるが、これらの欠陥は霊界に存在していた状態ではないということがたしかに言えるであろう。万物の回復されるときには、完全があらわれるにちがいないということは主なる神のみこころである。生れる前に原因のある肉体的欠陥は、（胎内に居たときの）肉体的の状態によるものであって、霊界からひきついだものではない。

＜東中央地方部大会での子供たち＞

秋季東中央地方部大会

＜1964年 9 月12日13日　於東京西支部

13日A.M 一般大会　750名＞

また、シオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親あらば、その子供8才の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親の頭に留るべし。教義と聖約68：25大会テーマ

九月十三日、曇り空の中を吉祥寺の駅から出ようとした時に、真新しい赤いふちの黒い表紙に銀の文字が刻まれてある本を持った、若い会員達を見つけた。

「おはようございます。よくいらっしゃいました。」と言って右手をさし出し握手を求めて下さった。左の胸には「案内班」と書かれてあった。

大　会　で

彼等は北支部の二十一才未満のアロン神権者達で、八時三十分に集合し、目ぬきの場所に立っておられたのだそうである。

十数人のこのような人と握手をしていくうちに、ここにあつまれと言わんばかりに真白な塔が、一本暗い灰色の空にまっすぐつきささっているように見えた。いつ見てもいいものだと思っているうちに、たくさんの人達が建物の前で話しているのが見えてきた。

塔の下では、またまたニコニコ顔の多くの人の握手ぜめ、彼等は西支部のフェローシップ中心の歓迎班だそうだ。

「秋季東中央地方部大会」と書かれた札のかかった玄関をくぐると「どうぞ前から」と誘導班にわざわざ横に付きそっていただいて一番前の席につれてこられた。北支部の二十一才以上のアロン神権者の方々がこの係を受けもってくださっているとのことです。

ホールに入るとエレクトーンの音がとても神秘的に重々しく感じられました。

では神権会の始まる前にちょっと失礼させていただき、隣の方にインタビューさせてもらいます。

「どこの支部からいらっしゃいましたか?」

「松本です。」

「昨夜はどこにお泊りになりましたか?」

「西支部です。」

「寝ごこちはどうでしたか?」

「消灯も十時にできたし、六時には起床できごはんもおいしくてよかったけれど、ただ隣の人のいびきが気になって……。」

また西支部のサービスが満点だったと言っている兄弟もありました。

中央支部の姉妹の宿泊班の方は、四時起きで、朝食の用意にかけつけたそうです。又夜良く寝むれるように神権者の宿泊班が蚊取線香迄気をつかって下さったとのこと。あとかたずけの方もセルフサービスでとてもスムーズにいったと、その姉妹は話して下さった。

大会の途中では、写真班、記録班、テープ班といろいろな兄弟が働いてくださるのを見て本当に感謝致しております。

前日、西支部に泊った方もあり夜の内に翌日のための清掃をして下さったそうです。会場整備班は又、当日は一生懸命ゴミを見つけて拾っていてくださり、本部班の兄弟は、

「田中兄弟のメッセンジャーボーイとして働いたのですが、もうへとへとにくたびれて足が棒以上になっちゃった。本当に指導者の忙しさ、苦しみを身にしみて感ずることができた。」と話していました。

ではかんじんの大会の内容はどうだったでしょう。二、三の兄弟姉妹の感想をここにのせることにします。

仙台支部のある兄弟は

「いままでの大会の中で一番良かった。内容

が大変上手に準備してありとても充実していた。特に子供達の話しが印象に残っている。」とのこと、また松本支部のある姉妹は、「初めて大会に出席したがただ感激のみ。こういう感激もモルモンだけの特権であり、モルモンはすばらしいと思う。本当にバプテスマをうけてよかったと思っている。」と、喜ばしげに話しておられた。

仙台支部の学生の姉妹は

「特に扶助協会というものが、まだ関係のないように思えていたが、今日はとても身近に感じられた。また指導者というものが、現状の姿しか見えず、崇高に感じられていたが、話しを聞いて自分達と同じような悩みを経験してきたということを知って、自分にもファイトがでてきた。」とはりきっていた。

東支部のある宣教師は

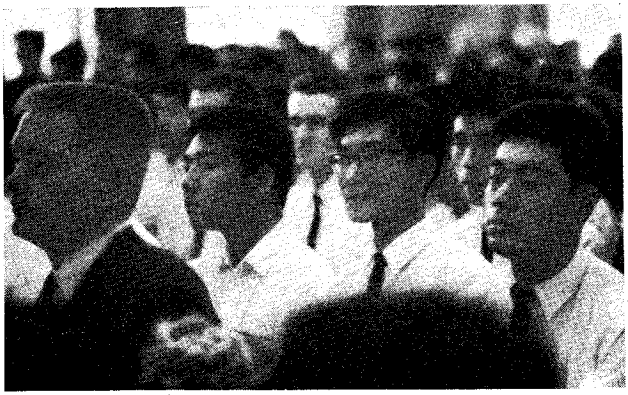
「ステーキ部の大会とまるっきり同じだ。この大会でモルモンの家族がたくさんできると思う。どうか実行して下さい。」と上手な日本語で話していった。

また中央支部の兄弟は

「実際に福音を実行した経験談なので感動させられた。作りものではなくこのような経験を話し合う機会を多くつくったら、もっと強い会員ができると思う。」

西支部の古い会員は

「十年前にはこんなに家族が多くなく、こんなごやかな風景を見れてうれしい。だんだん教会がふくらんでいくのが目に見えて嬉しい。」と語っていた。



大会で

仙台の学生は

「地方ではなかなか多くの指導者から直接このような話しを聞けないが今日は聞けてうれしい。また地方から中央に移転してきた人達に久し振りに会えて嬉しい。そんな意味でも大会の雰囲気はすばらしい。」

また「時間にもう少し余裕があったら。」とか「会場が狭くなった」という声も聞かれた。

また他にもっとたくさんの人達から感想を聞いたのだが、口をそろえて「よかった、よかった。」ばかりでした。

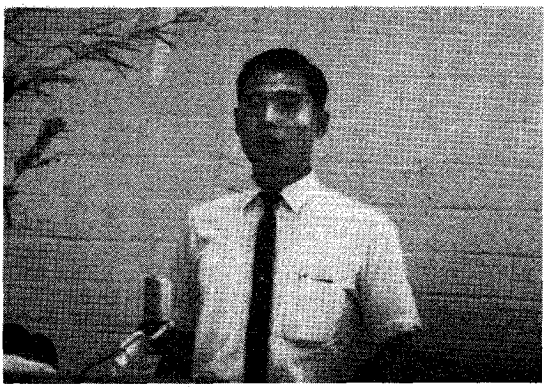
本当にいろいろの責任の方々このようなすばらしい大会にして下さりありがとうございました。ではみな様今日の大会の感激を忘れずに、神の王国建設のため、最後まで落伍せずがんばりましょう。ではこの次の大会まで神よまた会うまで汝を守りませ！

聖徒の道取材班　横浜支部

東中央地方部大会

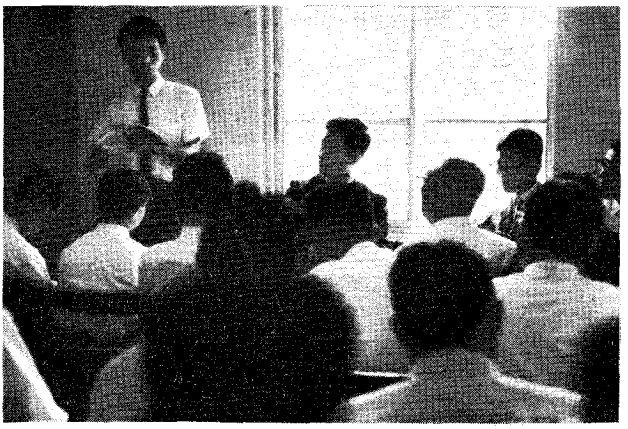
神権会

白亜に輝く西支部教会堂、神権者たちの暖かい歓迎にあって会場の礼拝堂に入る。開会が近づくに従って続々入場、開会時には超満員概算二五〇名、地方部大会の神権者で今大会が最も多かったと思われる。そんな興奮ともざわめきともつかないうちに開会され、新山甲府支部長の話に感動。支部発展の要素として新山長老は神権者の神権の認識、すなわち神権が神の力であり、それを授けられている神権者は会員の模範でなければならないことを強調された。又神権会レッスンの充実、神権ゼミナールに依り知識の涵養に努め、特に不活発神権者の活発化については既に新しいプログラムとして紹介されているように、ホームティチング、すなわち従来訪問中心のブランティーチングよりも密度の濃いもの、神権者の不活発の原因を究明しその問題解決に当り再び活発化させようというまでのそれを実行に移され徐々にその成果を挙げた。



甲府支部の神権者活動の素晴しい発展を喜びの涙と共に発表する新山長老（甲府支部長）

神の力に依り立派にその責を果して居られる神権者たちを見るにつけ、我々の受けている神権の偉大さを感ずることができる。その後分級されたが宣教師を除いて二百人を越す人数のため、部屋に入り切れないで外にはみ出てしかも熱心に指導者の話に聞き入っている姿が見られた。佐藤竜猪兄弟指導に依る会員求道者のクラスは三八名出席で行われ根本的な教義について判り易くしかも力強いお話があり、さすがは佐藤兄弟と某兄弟ため息が



第五長老定員会

でたそうである。二〇才以下アロン神権者のクラスは五〇名出席、福田真兄弟の例のマイクの要らない声の力強い指導の下に行われた各定員会の組織の成立段階、活動状況の発表で活発な意見を混えて終始熱の入った会であった。定員会及びグループの目的は神の子供としての兄弟相互の結びつきであり、それぞれの信仰、証詞を通して又神権を通しての奉仕、助け、励まし、慰め等である。又各支部に於ける定員会及びグループの活動状況については、不活発の支部もありその主な原因は①定員会グループに入るべき神権者が少い、或いは不活発であって少い。そして②グループ教師になる人が居ない、これは大神権者の不足が原因かと思われるが。又福田兄弟から業績証明書について説明があり、忠実に任務を果して個人賞を受けられるようにとの話があった。二十一才以下アロン神権者のクラスは四十名の出席、田中健治兄弟の指導で行われアロン神権の目的の一つはメルケゼデク神権を受けることである。それを受けるための準備についての話があった。すなわち使命を忠実に守り神権会と聖饗会には必ず出席の誠実、清潔な生活を営み、神を汚す言葉は絶対に慎むべきである。知恵の言葉を守り④健康、衛生に注意すべきである。又⑤自分の受けている神権の職に関する責任を果し、⑥什分の一を完全に納めるべきである。第五長老定員会は三十三名出席、北村兄弟司会に依り三人の兄弟の話を中心に進められた。メルケゼデク神権者をして福音の系統的な知識の必要なること。支部に於ける長老の職務、第五長老定員会についての説明等があった。そして提案として相良会長から活動として毎週一回定員会の集りを持つこと。機関紙の発行。支部長に協力する意味でフェローシップをしよう等。第一長老定員会は四十名出席、山田会長の司会で神殿行き計画の現状報告の後、意見交換が行われた。長老定員会が積極的に活動をの意見に対し①個人福祉委員会②教会活動委員会③事実調査委員会を構成して活動する予定とのこと。又他宗派のようにモルモンのPRをもっと積極的にすべきでそれを長老定員会の活動としてやってはどうか等々。

神権会で

筆書者の感想。集団と個人はそれぞれの相互作用に依りその関係が成立すると言われている。長老定員会の場合、個人が集団に対して働きかけているだろうか。何をどういう方法で長老定員会の会員として、求めたら良いのか。実際の活動に関しても指導者と定員会会員との長老定員会に対する問題意識に隔りがあるのではなかろうか。

全ての支部に於て神権者の神権に対する認識が深まり、神権者の組織的活動がなされつつあり、今迄に感じられなかった新しい息吹きのようなものを感じられる。この原稿作成にあたり神権者たちの協力を感謝します。

北支部　八木沼

東中央地方部扶助協会大会

秋のにおいを感じさせる安息日の朝です。東京西支部のレクレーションホールは神様の娘たちで会場はうまりました。主を賞め称えん……と目的を同じくする姉妹たちの心は一つとなり、主を讃美し唱う歌にも自然と力がこもり会場は一瞬にして主の御霊に満されました。

最近はモルモンの兄弟姉妹の結婚も少しづつ多くなりモルモンの家族がふえてきたためかモルモン二世のためにベビールームも準備されています。

扶助協会の大会ではモルモンの家族の様子が中央、南、東、横浜四支部の演劇によって紹介されました。中央支部の支部長の丸山兄弟は支部のお父さんとして忙しく働いていらっしゃいますので家族と共に過す時がほとんどありません。しかし週に一回家族と共にくつろぐという様子をぢのままで見せて頂きました。姉妹は長女の和子ちゃんに神様の教えを教え、周三ちゃんはお父さんのおひざに久しぶりに座り込んで遊んでいます。又和子ちゃんが唱う童謡を皆で聞いたり歌ったり周三ちゃんはお姉さんの和子ちゃんの歌を聞いて手をクルクル動かしこの名演技をごひろうして皆の顔をほころばせました。家族の夕べに続き南支部のモルモンの日曜の朝と題して改宗前の家族の様子を皆朝ねぼうをして朝食も食べないでてんでに遊びにでかける娘たち後にお母さんと末娘がとりのこされぐちをこぼすというところで幕がしまる。次に幕があきますと家族全員が改宗され父と弟を教会に送り出した後母と娘たちはタバナクルのコーラスを聞いたり聖典をひもといたりして過す。モルモンの家庭はすばらしいなとしみじみ感じました。

次には床にグリーンのモールを敷き教会の庭の感じを出してそこで東支部の姉妹たちが草むしりをしながら奉仕の喜びについて話合います。

最後には横浜支部で渡部兄弟の父さんをかこんでの大家族、神殿に行って永遠の結婚をすると言う希望をもった娘と父母の対話で私たちの神殿行きの気持をかりたてられました。伝導部扶助協会会長の柳田姉妹と伝道部扶助協会副会長の八木沼姉妹がはるばる名古屋から訪問して下さり力強いお話を伺うことが出来ました。すでに結婚している姉妹たちはもはん的なモルモンの家庭を築こうと、又未婚の姉妹たちは立派なモルモンの兄弟と結婚するためによりよき準備をしなければと姉妹たちの心は希望に満されました。

南支部　野田淳子姉妹

歓迎風景

楽しい親睦会とパーティー

神権者と扶助協会の親睦会で

九月十二日、午後六時、ＭＩＡ会場の西支部ホールも、殆んど満員になり、開会の讃美歌とともに、演劇の夕「ある喜びの夜」のコンテストが始まろうとしています。私達、取材班は、この様子を取材するために、慣れぬ手つきで、あちこちとまわってみましたが、何しろ、インタビューなどは、初めてのこと何を聞いていいのかもわからず、初めは、あっちの隅でおどおど。こっちの角でそわそわとまごついていました。

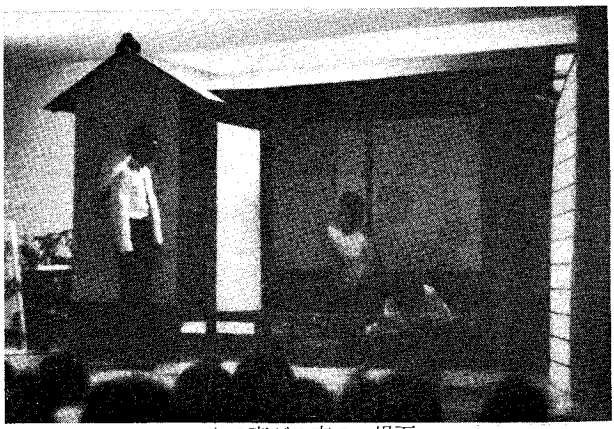
トップを切って仙台支部の劇が始まりますと、ホールの中には、すばらしい雰囲気が漂い、廊下には、出番を待つ各支部の俳優さんたちが、せわしく行きかいしています。その俳優さんたち、どこで覚えて来たのか(?)、本職顔まけのメイキャップをしています。

「仙台支部には、演劇のクラスがないんです。それで、演劇をする人もなく、役員総出でやってみたのですが、満足な練習もできなくて……」。と仙台支部の阿部姉妹が語って下さいました。

この演劇は、各支部が一幕ずつを分担して受持つ合作です。私たちは出演を終えて、舞台裏から、いかにもほこらしげ(?)な顔をして、飛び出して来る俳優さんたちに感想を聞いています。

「練習は、夜おそくまで、皆熱心にやったのですが、本番になって上がってしまい。だめです。」とあきらめ顔のある支部の兄弟。

「練習には、ＭＩＡの時間のみならず、普通の日も大部使い、よくやったつもりです。声を大きくするために、外に出て練習しまし



ある喜びの夜の一場面

た。」と自信たっぷりに語る及川兄弟（中央支部）。そばで、インタビューしていても恐ろしくなるようなメイキャップ。観劇していた方なら、よく印象に残っているはず、あの声でどなられたら、誰れでも身ぶるいをする事でしょう。その彼つけ加えて白く、「いや驚きましたよ、舞台の床が、メリッと音をたてて、割れてしまったんですよ。」と大奮闘ぶり。

一般に出演者の声が小さく、うしろで観ていた兄弟の一人は「内容はすばらしいのですが、声が虫の音と変らないのが残念ですね。」秋とはいえ、声だけは、大きい方がいいようです。

甲府支部の渡部兄弟は「私たちは、練習期間が2週間しかなく、リハーサルも一回しかできず、全く練習不足です。演劇の最中に、同僚がセリフを間違えたので、自分のセリフが出なくて困りました。」と、感想を語って下さいました。

殆んどの支部が練習不足を第一に掲げていますが、次に語って下さいました松本支部も練習不足とのこと、女監督の百瀬姉妹は、次のように言っていました。

「松本支部には、よいリーダーが見当らないんですね(?)。練習には、八月の中頃から始めましたが、仲々、やる機会がなくて…。」とその采配ぶりを語って下さいました。

なお、松本支部の俳優の一人の土屋兄弟は出演前に、体の具合が悪くなり、出演も危ぶまれていましたが、最後まで、頑張ってやって下さいました。その土屋兄弟は「昨夜は、上京する準備で、今朝の二時までかかりました。今朝は五時に起きて、勇んで出て来たのですが、その疲れが出たんすでね。出演中はもう無我夢中でやっていましたので、体のことなど忘れていました。今はもうこの通り元気です。」とその苦心のほどを語って下さいました。後に聞いた事には、劇の前に、病気が直るように、皆で、お祈りをしたそうですきっと神様のすばらしい祝福があったことと思います。

演技者紹介

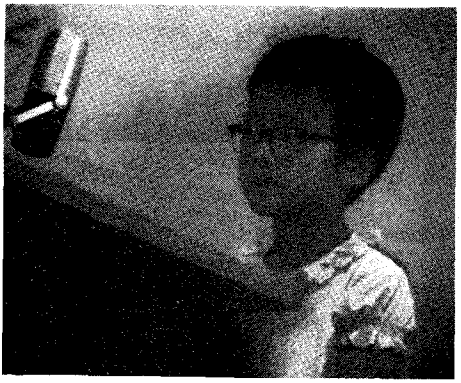
さて、最後にまわったのが群馬支部。仲々の熱演で、すばらしい劇を観せて下さいました。中でも、姉妹等のメイキャップ（鼻筋を白く塗っていた）は、印象深く残っています。

さて、演技が終りまして、審査が始まりますと、廊下に居る人々は殆んどなく、皆、舞台に注目。中東兄弟の発表は、中央支部と、群馬支部が同点で一位とのことでした。審査が終ってホールを見渡してみると、いつのまにか、ホールだけでは入りきれず、うしろの部屋にまではみ出していました。本部役員の米村兄弟（東支部）の話ですと、およそ六百名の参加ということです。ほんとうに、これほどの多くの人が集ったＭＩＡは初めてではないでしょうか。

一般大会報告

その1

涼しい雲空のもと、美しい教会堂には、朝早くから、多くの兄弟姉妹が集い、会場は一寸の余地もないほどであった。午後十一時半過ぎ、愛と喜びと、そして期待に満ちたすばらしい雰囲気のもとで、一般大会午前の部は始まった。壇上には、アンダーセン伝道部長御夫妻、今井地方部長外各指導者にまじり、



渡部安子姉妹　9才

いつもと違い、かわいい顔も二、三見える。午前の部テーマである「聖き家族の幸は如何に」のもとに、まず横浜支部の渡部安子姉妹が「私の証詞」と題して、壇上にメガネの顔がぴょこんと載っているように見えるかわいい顔で「私のお父さんは、安息日に因んで、私を安子と名付けました。毎朝の祈りで、今伝道中の二人のお兄さんのために祈ります」と話されたが、モルモンの家庭に生れ、育っていく、子供が如何にすばらしく、幸福であるかが良くわかった。私たちは次に話しをする人は、どのくらいの年頃の人だろうと、静かに、ヤヤ緊張して待った。やがて「私の家庭を愛していらっしゃる神様」という題で、東支部の渡辺留美姉妹が、落ついた声で話された。彼女は約一年前、御両親と御祖母様と妹の美穂ちゃんと共に、教会へ入いられたが現在お父様が病気であるため「神様がきっとお父様の病気をなおして下さる」という強い証詞を述べられた。三人目横浜支部のホープ小笠原康光兄弟が壇上に立つと、雰囲気もユーモアなムードに変り話が進められた。彼は自分の結婚に対しての「私はこのような家庭を築きたい」というもので、結婚まで、三つのコースを考えているとのことで、第一は大学在学中に伝道すること、第二は、大学卒業後伝道すること、第三は、伝道を親が許さなかった時は、大学卒業後働く、と言うもので伝道のためには、アルバイトも辞さないとの強い決意であった。又家庭については、伴侶は、絶対に、教会の会員であり、尊敬出来る愛のもとで立派な家庭を築きたいと述べ、それにはまず自分がりっぱな神権者となることであるとして話を閉られた。次に遠来の仙台

渡辺留美姉妹　中学2年

ＬＤＳ聖歌隊のコーラスが行なわれ、会場いっぱいに、美しい声が響きわたった。コーラスが終り、再び姉妹に戻り、松本支部の百瀬久子姉妹の「姉妹としての準備」という題で話が始められた。姉妹としての準備は即ち、神権者に負けない立派な姉妹となることという前文で始まったこの話しは、百瀬姉妹が強く姉妹たちに望んで、いらっしゃることが、うかがえた。五人目の北支部中野正之兄弟の話「末日の指導者の家庭」では、今までの話と違って年代が青年期に移ったため、話の内容も、高度化し、末日の指導者の偉大さと、いつも指導者の家庭は、愛の堅い絆で結ばれていると強く話されたのは、非常にたのもしく、印象的であった。次の群馬支部新井シゲル姉妹の話しは「私たちの出合いと交際」について、新井姉妹自身の経験をもとに話して下さったので、私たちの心をつよく、うつものがありました。教会における兄弟姉妹の結婚は、年令その他の障害は、愛情とは何ら関係なく、それらによる意見のくい違いや不和はお互いの愛と理解によって、解決出来るという、生きた証詞でした。はや六人の兄弟姉妹のすばらしいお話を聞き、心ならずも、疲れを感じ出したが、松本支部ＬＤＳコーラスの合唱で、一息つくことが出来た。いよいよ、地方部第一副地方部長の田中健二兄弟が壇上に立ち上って、アクセントの強い口調で、力強く話を始められた。「子らに寄せて」と題し、数多くの立派な話があったが、その中で一段と力を入れて話されたことは「自分の子供が伝道に出して下さいと言い、又あの姉妹と結婚しますといってくれることを一日も早く待ち望んでいます」とモルモンの神権者として、父親としての真の喜びと期待を、示して下さいました。最後に地方部評議員である佐藤菅猪兄弟が、いつものように、慈悲深い目差しで「兄弟と姉妹が教会で結ばれ、神殿において、永遠の結婚の儀式を行うように祈っています。」と話しを結ばれた。マッケイ大管長は「現世における神のしもべ等の家庭は、地上における天国の縮図である」とおっしゃいましたが、今私たちは、数多くの尊い話を聞き、いかに、モルモンの家庭は、すばらしく、幸福の泉であるかを、改めて、知ることが出来ました。すでに、幸福な家庭を築いている兄弟姉妹は、さらにより良き家庭のために努力を誓い、これから築こうとする若い兄弟姉妹たちは、将来への希望を胸に、いだいたことであろう。「家庭の中に愛あらば……。」七百数十名という地方部大会始まって以来の多くの兄弟姉妹たちの歌声は、高く、明るく、はずんでいた。やがて、近い将来、モルモンの家庭が基礎となって、地方部もステーキ部となり、真の祝福を受ける日が来ることを、さらに強く感じられる本大会であった。

私はこのような家庭を築きたい
小笠原康光兄弟（横浜）高校３年

東京東支部　米村武敏記

一般大会報告

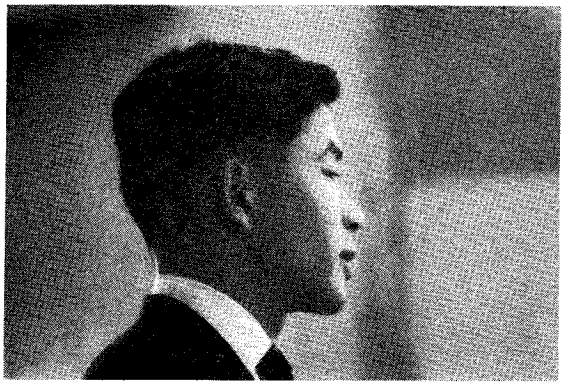
その2

〝おはようございます。〟〝よくいらっしゃいました。〟といって私たち歓迎いいんは握手をして、今日のプログラムを手わたした時、多くの兄弟、姉妹と会える幸せで胸がいっぱいでした。

めずらしく空が晴ればれとして、私たちの集会を祝福しているがごとく秋ばれの天気のもとで東京西支部において秋季地方部大会が多くの兄弟、姉妹の出席のもとで開かれました。幾冊かのプログラムを手に教会の入口でみなさんをまっていると、道をまがって私たちの教会に歩をすすめてくる兄弟姉妹のなごやかな顔をみると、しぜんと私たちも顔をほころぶのでした。〝どこの支部ですか〟〝○○支部です〟とずいぶん遠方からの兄弟、姉妹もいらっしゃいます。私たちのすばらしい教会の中はたちまち一杯になりました。久しく会わなかった、他の支部の兄弟、姉妹、同志の感激のあいさつがしばしきかれ、なごやかのうちに地方部大会のまくあきである。神権会、扶助協会が始まりました。十一時三十分に一般大会が始まるころには、七百前後の兄弟、姉妹が白い楽しい教会の中にうずまりました。一たび集会が終ってろうかに出ると人のうずで一杯になり、スムースにあるけないほどでした。十一時三十分に一般大会の午前の部が西支部のチャペルとリクリエーションホールに一杯の兄弟、姉妹を集め〝主よ荒海を導きたまえ〟の開会の歌で始まりました。いつもはチャペルに西支部の兄弟、姉妹のみで歌っている讃美歌も今日は一段と力づよくすばらしいひびきとなって私たちの耳にきこえました。今日のお話しはモルモンとして生まれて、神を愛しそしてすばらしい人にめぐりあって結婚し、すばらしい家庭をもち、やがては神殿での永遠の結びつきをして永遠の幸せを、うるというようなすばらしいお話しでした。私たちの出合いと交際というテーマで群馬のある姉妹のお話しには若い兄弟、姉妹はさぞ耳をそばだてて聞いていた事でしょう。お話をして下さった兄弟、姉妹も小さな可愛いい姉妹から、学生、家庭を持っている兄弟といろいろとバラエティーにとんでいてプログラムを用意して下さった兄弟姉妹に感謝したい気持です。さて待望の昼食です。みんなの一番ハリキル時間です。扶助協会の用意したおいしい、おすしでした。ピクニックの気分で秋晴れの下で家庭とお昼をたべていたり、なつかしい兄弟、姉妹とおし

姉妹としての準備　百瀬久子姉妹（松本）

ゃべりをして食べていたり、写真をとったりとられたり、午後の一般大会の始まる迄、本当になごやかな楽しい午後のひとときでした。どっかで何かが芽ばえたかもしれませんね（？）そろそろお昼の休けいも終りです。芝生に影が消え午後の一般大会の為に再びチャペルの中の人となりました。午後の部はモルモンの家庭を持っている方たちにはすばらしいお話しだったでしょう。この集会にもこどもをつれて出席された御夫婦がみうけられましたが、みていてなごやかで本当に家庭に幸せがみなぎっているようにみられました。独身の兄弟、姉妹はさぞ刺激された事と思います。アンーダセン伝導部長御夫婦が母として父としてのお話しはすばらしく子をもつ兄弟、姉妹が聞く以上に深い感動があった事と思います。



中野正之兄弟（北）

東中央地方部大会から

このような家庭的ななごやかな内に五時に一般大会は閉会となりました。遠方からの兄弟、姉妹無事に各支部におかえりになれましたか。またこく次の大会で健康な体をもってお会いいたしましょう。それまでみなさんお元気で西支部の空からお祈りしております。

（沢渡夏代・木村紀世子姉妹）

新井シゲル姉妹（群馬）

大会付記

地方部第一副地方部長
田中健治

我子に寄せて　田中健治兄弟（横浜）

私たちの秋季地方部大会は喜びの内に終了した。今回の大会から大会の運営をすべて地方部のアロン神権者の活動として行った。

地方部長会は六月二十一日地区大会が終ると同時に地方部大会のプログラムを練り、準備を充分にするとともに、大会運営を組織的に行った結果、全員のための大会という感じが強くなった。

写真、記事で紹介出来ない班員の方々がまだ沢山おられる。

第一・第二・第三の部長として直接に指導に当って下さった三人の地方部アロン神権委員の方々、ベビー係、救護班、本部伝令、印刷班、その他の全ての方々の一致した働きが御意に適った大会を生んだ原因であった。そしてこの活動は特にアロン神権者を強くしたことに疑いがない。

私は最後の祈り会のあとの神の息子たちの輝く眼差を忘れることが出来ない。

これから数年先彼等がいくつものステーキ部の大会に自信のある導きをうけつつある指導者として活躍する姿を心に浮べて身内の暖まる思いをしつつ帰路についたのだった。

尚大会の全ての話は大変良く準備されたお話でしたので、いつかテープから印刷に移す予定で居ります。

系図に関する資料

野口英世の系図

別紙に書出した野口英世（ひでよ）の系図を御覧下さい。およそ日本の医学者で野口英世ほど海外で有名になった学者は少ないと言われます。一時はノーベル医学賞の受賞候補者の噂さにまでのぼったくらいの偉大な細菌学者です。野口博士の性格、青年時代の素行に就ては、芳しくない評判もありましたし、事実変った性格の持主であった事は否定出来ませんが、彼のなしとげた学問的業績は確かに世界的という形容に価ひする立派なものです。

高等小学校卒業だけという貧弱な学歴で青年時代の失恋という、苦がい経験に発奮して、世界の細菌学界のひのき舞台にのし上った彼は、やはり世界的日本人の一人であります。

然かし彼の生い立ちは、福島県猪苗代湖々畔の一貧農の息子に過ぎません。何等の門閥すらも無く、彼自身、自分の系図に対して生前に関心を持っていたと伝えられず、又彼自身にとっても、その事は誇りを以って研究に価いする事ではなかったようです。彼の実父は、酒を呑む以外には人生に何の希望もない、一個の田夫野人でしたので博士も、自己の父に就て積極的に発言するような事はかって無かったそうです。

しかし博士の系図は博士の死後、彼の伝記の作者によって、探がし求められ、五代前までほぼ明らかにされました。それ以前の先祖に就ては郷土の口碑に依り、ある憶測は立てられていますが系図的に確証はありません。

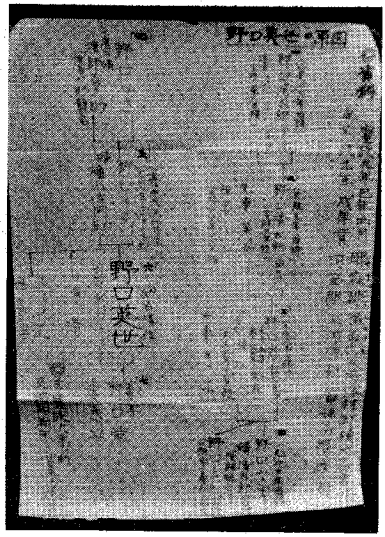
博士の生れたのは明治九年ですから明治戸籍法も未だ完備して居らなかった頃ですからこれらの系図の資料は戸籍から求められたものではありません。系図の傍に書き出しておきました通り、資料の出所は「検地名寄帳（なよせ）」と百姓分限改帳（ぶんげんあらため）」であります。

検地帳、其他郷土に昔から伝わっている古文書等は系図探求上極めて重要な資料です。野口が武士の子孫であれば系図くらいは伝わっていたでしょうが、代々の貧しい農民の裔である彼の先祖はこれらの記録を通して始めて判明したのでした。

御検地名寄帳というのは、其当時の藩の規則に基いて、役人立会のもとに、村の名主や郷頭（ごうがしら）と一緒に、田や畑を「お竿入（測量の事）」して百姓に割当た帳面でありまして、今で言えば土地台帳のようなもので、これに博士の六代前の先祖である清太郎の名がハッキリと載っています。

百姓分限改帳というのは、封建時代の農民の家屋、耕作高、家族構成と基増減、家畜の数まで記載してある重要な村の公文書でありこの記録の発見（博士の郷土である翁島村々長宅より発見）された事に依って別記の系図が完成されました。

以上実際に系図探求された実例の一つとして、ここに引例して、皆さんの参考に供します。



阿倍野支部系図委員会

阿倍野支部ではとにかく一人でも多くの兄弟姉妹達が系図に関心を持ち

一、個人の記録

二、ファミリーグループシート

三、ペディグリチャート

の作成を一葉でも多く完成するようにPRしています。

当支部に於いて田口兄弟、国島姉妹、大谷睦子姉妹達の系図を調べる時の注意やこれから調べようとしている兄弟姉妹達によく理解出来るようにすばらしいお話を開く機会が有り私達系図委員の役員はよく調べていらっしゃる兄弟や姉妹のお陰でこの会を強化するように努力しています。そしてこれからも大いに系図に興味をもち先相の探究が私達にとって大切であるかをこの系図の集いを通して役員一同頑張っていきたいと思っています。

最後に役員のメンバーを紹介したいと思います。

系図委員会

会長　坂本頼彦兄弟

第一副会長　平山照久兄弟

第二副会長　岡林博文兄弟

書記　西尾啓子姉妹

ハワイ神殿訪問予定者に告ぐ（二）

伝道部系図委員会長

渡部正雄

一、来年（一九六五年）七月ハワイ神殿訪問予定者は本年末迄に夫婦又は婚約者一組当り、八万五千円（十七万円の半額）を伝道本部に貯金出来るように準備せられ度いと伝道部長会の方から通達がありましたのでお知らせ致します。

二、

1. 系図一枚と先祖の家族の記録三枚（夫妻各別）を本年末迄に提出すること。
2. 本人が夫たる自分の家族の記録は八才以上の子供に死者がない限り、神殿訪問の時に携行すること。
3. 右の場合に於て配偶者又は八才以上の子供が死亡して居る時は、本年末迄に提出すること。
4. 月日が陰暦の場合は Lunar Calender のLをかっこして月日の後に入れて下さい。右の場合、陰暦と陽暦に年末十二月と年始一月に年度の相違が出て来ますがそれは無視します。天保○年とか慶応○年とか日本の年号で入れた場合は必ずローマ字をその下に書いて下さい。

伝道部扶助協会会長

柳田聰子

九月というのにストーブを焚く北国、北海道の大会を終えて、各支部の兄弟姉妹と接する機会を頂きました。アンダーセン伝道部長の御言葉により、この度中央から遠く離れている北海道の各扶助協会の姉妹たちを訪れて知り合い、お互の心が一層緊密に結ばれた思いをしながら今この機会を深く感謝して居ります。又その地で泊めて下さった温い若いモルモン家庭の兄弟姉妹に心から感謝致します。今帰宅したばかりですのでこの訪問旅行に際して受けました証を述べさせて頂きます。

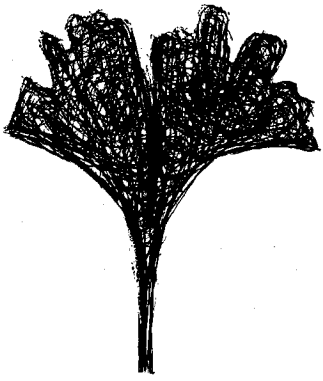
まず天のお父様は実に生き給うということ忠実なる僕に常に恵みの光を投げかけられ、必ずその僕たちの霊的生活には喜びと安心を与え、物的生活には必要な物を惜しみなく賜い、一層彼等霊的向上のための活動に支障なきよう援け給うということです。私はいつもそのことを確信して居りましたが、この度沢山の実例を身近かに見て一層確信致しました。その降り注がれている素晴しい恵の光の中に、明るく輝き、愛と信頼によって平和な幸福な生活が営まれている数々の家族を見せて頂きました。

誠に「天国とは幸福な家庭の延長である」という言葉そのままに感得することが出来ました。天のお父様の示し給う僕たちの家には静かな平和があり、或る家では幼い子たちを抱えながら、又或家では近く神様の子供を迎え入れるべく用意している近い将来のお母さんたちを擁していました。彼等の毎日の日課は忙しく組まれていますが、彼等は皆お恵みの中に喜びと希望に溢れて周囲の者にも明るい光を投げかけて、接する者たちを和やかに愛と互の信頼の中に包んでしまう力を持っています。主の示し給う真理の光を知ったからこそだと感じます。「信仰は行動の原動力」だと云いますが、その生活全体を光へと押して行く力だとも考えられます。このような僕たちの家庭がまだまだ沢山この日本の地の上にあると信じられることは何と素晴しい喜びでしょう。又所謂モルモン家庭でなくても正しい真理を知った神様の子供が一人その家庭に属しているだけでも、その家庭には特別の愛と信頼の雰囲気が感じられました。一人一人が確かに光を掲げて行けばこの世にあっても神様の喜び給うシオンを建設することはそんなに難しいことではないと感じました。

この喜びを皆様にお知らせしたいと思いました。そして共に希望を抱いて手をつないで行こうではありませんか。兄弟姉妹が互によく知り合い理解し合って皆で心を一つにすることが出来ますよう、心からお祈り致します。

教会の独立

目的
全財産献納法の或る
重要な部分及び教会内の
団結の重要性に就て学ぶ



第七十八章

千八百三十二年三月、オハイオ州ハイラムにて予言者ジョセ貧しき者の生計を確立するため、主よりエノク（ジョセフ・ス教会の歴史、第一巻、二百五十五頁（英文）を見るに次の註あたまいし個人の名は、当時世に知らるること必ずしも望ましきまた後に示されし若干の啓示の中にて、その兄弟らの名は本名今は最早個人の名前を秘して一時語らぬ必要は無くなれるを以せり」と。この世の事を律するために、民をして更に完全に細精神に就きてじゅんじゅん教え給う。更に啓示を時々給うことを定め給う。

第五十九課　教会の独立「教義と聖約」七十八・八十三章

テキスト　教義と聖約

一九六四年十二月第一週

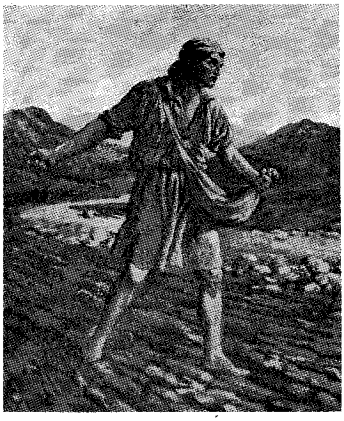
序文

予言者ジョセフ・スミスがシドニー・リグドンを書記として聖書の改訂に従事していた時、〝示現〟として知られた啓示を受けた事を思い出すでしょう。この輝かしい啓示を受けた後予言者はオハイオ州ハイラムに居る間聖書の仕事を継続しました。聖書たちのアメリカ大陸にシオンを建設することに就ての関心は減退することなく継続しました。シオンの建設に適用される律法に就ての最初の啓示は既に十三ケ月以前に受けたのでありました

がシオンを実現する為の主な律法であるところの全財産献納法の基本法の教えを再び強調実習する必要がありました。七十八章はシオン建設に就てのこの律法の重要性を更に指摘することの必要に応じて受けたものでありました。この目的に密接に結びついて、当然の結果として、生じて来る問題は、この世に於ける教会の独立という問題であります。

七十八章の最初の二節に於て、全財産献納法（或場合には共同体制とも言われる）を知りたいと望んで集ったメルケゼデク神権者たちはこの体制に於ける彼らの救いの為に智恵ある言葉を受けるように告げられました。

この章から始まってそれに次ぐ数章には、人や場所や目的物などに関する特別な名が出



て来ます。七十八章の前文は、その当時、この情報が知られることは望ましくなかったと告げて居ります。その後、教義と聖約の私たちの今日に於て出版されたものには両方の名前が与えられて居ります。

背景

一八三一年二月に聖徒たちがこの地上でシオンを建てるにはどうしたらよいか、知る為の律法（四十二章）として知られる啓示が与えられました。この啓示及びそれに次ぐ教えの中で主は聖徒たちはその体制内の全教会員の共同の益の為にその持物を献納すべきであると言われました。

所有権を引渡してから各人は自分自身及び家族の為、その環境、必要に応じて自ら処置出来る管理権を与えられたのであります。管理権の範囲を越える余剰は多くの目的の為に別にして取って置かねばなりません。

〝重ねて言う。この第一回の奉献を為したる後、教会の所有する財物、または何れの教会員個々の有する財物にしても、自己の生計に必要なるほかなお余りある時は、これは教会の監督に捧ぐべき残余にして、折々持たざる者に施すために貯え置き、かくてすべて必要ある者は皆充分に給与せられてその足らざるに従いて、受くるようにすべきなり。

〝この故に、すべての余りはこれをわが倉庫に貯え置きて、教会の高等評議員および監督としてその評議員らの命ずるところにより貧しき人々および乏しき人々に給与し、

〝かつまた教会の公益のために土地を買い礼拝の家を建て、やがて啓示さるべき新エルサレム建設のために使用すべし、教義と聖約四二・三三―三五）

一八三二年四月三十日、予言者が或兄弟たちとミズーリに居る間に共同体制の下に於ける寡婦と孤児に就ての或疑問に応じて啓示が与えられました。（八十三章）

責任の基本原則は八十三章に置かれました。夫は妻と子供の為に備えねばなりません。片親が失われた時は他の片親は子供たちを世話する責任を有します。（二、四節）夫又は父親が死んだ場合、教会が寡婦と孫児の為に倉庫から準備します。（六節）貧者は倉庫から遺産を受けられることも規定されてあります。この啓示で明確にされた、もう一つの重要な原則は子供たちが遺産を必要とする年令に達した時、その両親がそれを用意することが出来ない時教会が子供たちの為にその遺産を用意出来ると云うことであります。（五節）

その人の価値も誰が教会から受けるべきかを決定する標準となります。

平等

前述した通りの、定められた全財産献納法の目的と原則に就て主はこれらの目的が実施される時、個人にも教会にも素晴らしい祝福がもたらされると言いました。物質的な平等は人の救いを通して神の光栄を増します。

〝かくして、天に就ける物に於てもまた平等となる。

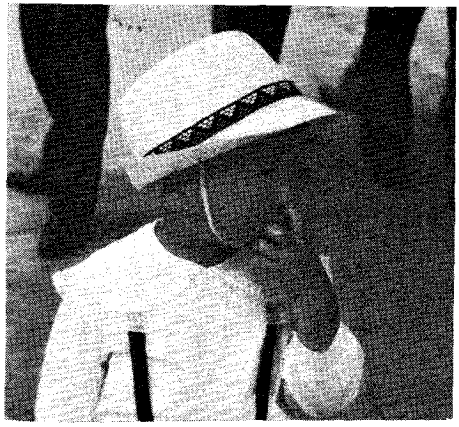
〝汝らもし、この世の物に於て平等ならざれば天の物を受くるに於ても平等なること能わざるなり。

〝汝らもし、日の栄の世界に一つの所を得んことをわれに願わば、わが命じて汝らに求むるところを行いてその備えを為さざるべからず。

〝さて誠に主は云う。今この制度に共に加わりたる汝らにより、すべての事わが栄光のために為さるるはわが必要とするところなり（教義と聖約七八・五―八）

この世での物質的な平等はすべての人が正確に同量の所有をすることを意味するのではなく、各人の必要に応じてその目的の為に充分であることです。この事に関してルーベン・クラーク管長は次のように言いました。

明らかにこれは絶体的に平等と云うわけではない。それは人々の環境、家族及びその必要の相違に応じて異った平等である（一九四二年十月四日　大会報告　五五頁）



ブリガム・ヤング大管長は、救いの計画は物質的霊的一体化を想像する（説教集一七・四〇）

主は曾て或者は他の者より多く所有しているので世は罪に落ちた（教義と聖約四九・二〇）と言われました。全財産献納法の基本はすべての物は主に属しているということであります。それですから人が如何なる物を所有していたとしてももしそれをシオン建設に召された時は引渡してもよいのです（教義と聖約一〇四・一四―一七、五四―五七）

これらの又その他の原則を念頭に置いて、ジョン・エイ・ウイッオー長老は共同体制の或原則を私たちに与えてくれました。

〝その目的は生活の必需と慰安の為に働らこうとするすべての人に備え、この地上より貧困を撲滅することにあります。それは共同計画でありますが人の自由意志を認め個人の財産権を尊重し個人の創意を保存奨励する点に於て今日の共産主義と真向から対立して居ります。

先づこの地球は主のものであります。人々はその所有物の管理人に過ぎません。それですから人はそのすべての所有物を主の意志に従って用いねばなりません。

第二にすべての人は神の子であります。神聖な家族であります。そこで主は必要が生じた時はお互に援け合うべきであると要求されました。但し働らかない者はその兄弟に対して要求することは出来ないわけです。

第三にすべての人は自由意志を持てる者と

して尊敬されねばなりません。彼は喜びを以てこの体制に加入することが出来ます。そして加入してしまえば割当てられたものを自由に充分に用いることが出来るのであります。彼は何時でも自由にこの体制を出て行くことが出来ます。

第四にこの体制の統治は、体制の会員たちによって支持された監督、副監督たち及び必要とされる補佐たちによって管理される中央機関にかかって居ります。この中央機関は、通常個性の強い者たちの間に生ずる争議を調整する力を持って居ります（ウイッオ・ジョン・エイ、ジョセフ・スミス一九二—三頁）

我が栄光の為に

人々が彼ら自身の救いをもたらした時に、それは神の栄光に資したことになります。（モーセの著一・三九）七十八章の九節に名をあげられた長老たちはシオンの兄弟たちを訪問して共同体制に就て相談するように指示されました。彼らは誠命に従うことを誓約した人たちの眼をくらますサタンの誘惑を忠告されました。人が主と新しい永遠の誓約を交わしたら（福音又はその如何なる誓約でも、全財産献納法のような）その誓約のすべての面に従うことが期待されます。律法を守る者の報いと祝福は、すべての要求を守る者に期待される。その反面これらの兄弟たちのように不従順であればその職を失いサタンの手に打ち叩かれるままにわたされるでありましょう（十二節）

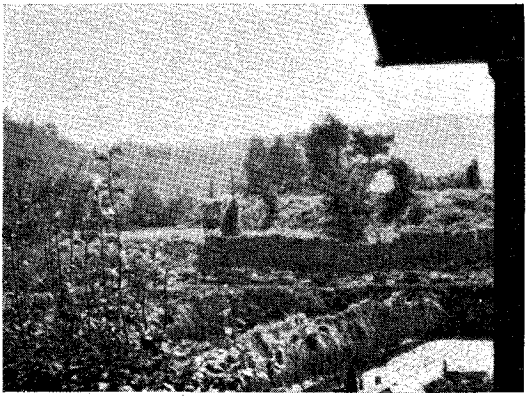
教会の自立

主のすべての祝福と約束は、それらが予告されている原則に従う時に成就されるのであります。一八三二年に主は聖徒たちに全財産献納法に従うことによって、教会は地上の他のすべての者の上に自立するであろうと約束しました。（教義と聖約七八・一三—一四）早期の会員たちは全財産献納の誓約に従いませんでしたがその約束は未だに効力を有して居ります。教会は今日、世界に対し光であり、世界の民の模範として続くでありましょう。（同上　一一五・四—六）主の組織が定められたようにこの世の中で強力なものとなったら、政治的、財政又は産業的他のすべての組織から独立するでありましょう。（教義と聖約註釈　四八二頁）この考えに就て特に教会が世の光であることに就てジョン・エイウイッオー長老は言って居ります。

いつかこの世は厳しい必要性に迫られて共同体制として教会に知られているところの計画経済を実施するようになるでしょう。けれども社会主義又は共産主義と全く異った方法に於て（ジョセフスミス一九七頁）

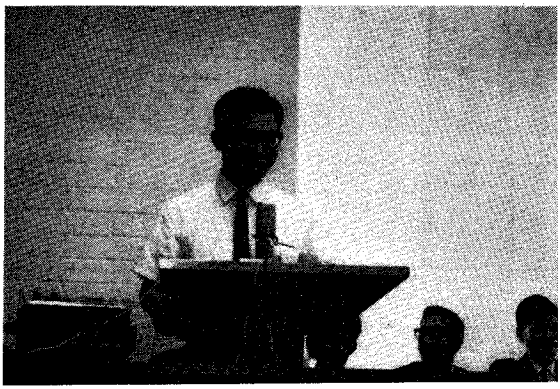
私たちは主が曾て私たちが救われ主の御業が人類の進歩向上をもたらす為に共同体制となるように命ぜられたことを覚えるべきであります。そのような協力は教会自立の予言に貢献するでありましょう。

教会の会員は教会会員各人の進歩と一組織



としての教会の向上の為に働らくと誓いました。この真理に照らして十二使徒会のハロード・ビー・リー長老は末日聖徒がこの責任を果す或方法を私たちに与えました。

もしも私たちが一致して完全に断食献金を守っていたらもし又私たちが今日の指導者によって与えられた福祉計画の原則を実行していたら私たちは貧乏及び不況から解放されて



小室敬東中央地方部第二副地方部長

完全に自立していたでしょう。

もしも私たちが私たちの伝道の仕事に完全に一致協力していたら、シオンのステーキ部の内外を問わずすべての民に福音の説かれる日を急速に促進していたでしょう。

もしも私たちが犠牲の律法を守り今日、教えられたように什分の一を支払っていたら、私たちは私たちの神殿を、教会堂を学びの殿堂学校を充分に建てていたでありましょう。

もしも私たちが、私たちの合同している政党に関係なく政府の要人を選ぶのに尊敬すべき人を選ぶことに協力したならば私たちの社会を安全にし法律と秩序を保持したでありましょう。

もしも私たちが開拓時代からの伝統であったように社交とリクレーションを私たち団体内だけに保って、無差別な交際による教会外との結婚を育成するようなことなく青少年を安全に守ることに協力していたならば私たちはすべての末日聖徒の家庭を健全な幸福な基礎の上に建てていたでありましょう。

もしも私たちが偽りの教義及び間違いから教会を守り、塔上に立つ見張人のように、教師又は指導者が教会を見守ることに一致協力していたら、多くの人をつまずかせたり、その信仰を失わせたりするようなことはなかったでしょう。

もしも私たちが神殿の仕事と系図探求に一致協力していたならば〝私たちは現在の神殿だけでは満足せず、まだ来るべき神殿の為に充分の仕事を持ち彼方に居る私たち肉親への機会の扉を開き、かくして私たち自身、シオン山の救い手たちとなることが出来たでしょう。（一九五四年四月大会報告　九六―九七頁）

聖徒たちが団体としてその結合の程度に応じて全体的な主の目的は成就されるでありましょう。けれども個人に関する限りもしも彼が組織体としての教会の前進する歩調に結びついていなかったら、その最高の意識に於て救いはないのであります。

試練

一八三〇年に聖徒たちは約束の完全に成就される日に先だちて試練がもたらされるであろうと警告されました。（教義と聖約　五八・一―五　七八・一四）

世の中は概して生きた予言者の言葉に耳を傾けないので、まだ多くの試練に堪えねばならないでしょう。（同上　四五・二五―三三）

教会幹部は長い間、経済的な福祉に就て、忠告して来ました。一九四一年度の大会で、

十二使徒会のハロード・ビー・リー長老は次のように言いました。

〝私たちの指導者の過去の教えを一寸復習しただけでも不従順な者は警告され従順な者は更に忠実であるように励まされます。今日はウィルフォード・ウッドラフ大管長が四十年前に語った言葉を聞いて見ましょう。

〝物質的なことに関する限り、私たちは働らいて自分自身で準備すべきであります。貴方が自分の手で貴方自身の靴や衣服を作り、食物を作って一致協力して、主の目的を達成せねばならない時が来るでしょう。私たちは神の審判の日にシオンの山に保存されるでしょう。兄弟姉妹の皆さん、それですから私は皆さんに将来に備えなさいと申上げます。（一九四一年十月大会　一一四頁）

私たちの王の君、アダム

神の御意志によって教会がすべての世のつくられた者から独立する時、その準備に努力した人は、多くの王国の統治者となるでしょう。日の光栄の王国に於ける昇栄は、多くの王国と子孫を治める力を与えます。（教義と聖約　七八・一四―一五）

このメッセージは人類の先祖であるアダムに就ての或情報のはしがきの役目をして居ります。これが現代の啓示でアダム・オンダイ・アーマンに就て指摘された最初であります。（教義と聖約註釈　四八二―三頁）ここがアダムがその子孫と逢い祝福師の祝福を与えたところであります。（教義と聖約　一〇七・五三―五七）アダム・オンダイ・アーマンはミズーリ州のジャクソン郡の地方デヴィス郡にあります。

〝かくの如くアダム・オンダイ・アーマンの礎を建てたる「シオンの聖者」なる主なる神云う。

〝この神は、すなわちミカエルを汝らの君に任命してその両脚を固うし、高き位に彼を置きて生命の始めなく齢の終なき「聖約」の御旨と導きとの下に救いの鍵を与えし神なり。（同上　七八・一五―一六）

この節はアダムが末日聖徒の信念の中で占めている地位を理解させてくれます。アダムは至聖者、イエス・キリストの指示の下に、すべての彼の子孫の上に立つ王の君であります。そしてこの世が日の光栄化した時に彼らを治めるでありましょう。

結論

当時の又今日の末日聖徒は忠実な者の為に貯えられた偉大なる祝福を理解することに於て幼児であります。人が多くの王国を治め（教義と聖約七八・一五、一七）すべてのものを受けつぐ（二二節）としてもそれが何を意味するかを理解する人は少いのです。私たちは現在の祝福を理解出来、又賢明な管理人であるなら将来の大いなる祝福を見つめることが出来るでしょう。結局主は私たちが現在受けているものに感謝するようにうながされて居ります。そうすれば永遠の富は私たちのものであります。

考察の為の質問

一、全財産献納法の本質的な原則を述べなさい。

二、八十三章にこの律法に就てどのような追加的な情報が与えられていますか？

三、共同体制下の会員の平等に就て討議しなさい。

四、教会自立の目標を達成する為に教会の会員は如何に結合したらよいでしょうか？

すべての人その隣人の利益を計り

誠心誠意神の栄光を顕すために

すべてのことをなすなり 教義と聖約 82:19

訪問教師のメッセージ
教義と聖約に基づいて実践する真理
メッセージ第五十九
一九六四年十二月第一週

目的 主の祝福と隣人の愛に値する者となるには私たちの行為が他人のことを心から考えるものでなければならないことを示す。

他人に関心を持ち、思いやりを以て奉仕することは、よいクリスチャン生活の基礎をつくります。救主はその伝道期間を通じて、最大な喜びと幸福は他人を愛し他人に奉仕することに自分の生活の中心を置いている人にもたらされると言うことを強調されました。

イエスは言われました。

〝わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。〟（ヨハネ一五・一二）

他人に関心を持ち、思いやりを以て奉仕することが唯一の純粋な真の愛の表現であります。

救主の話の内で最もよく知られた隣人のことを思った劇的な模範は、よきサマリヤ人の話であります。

傷ついた人をほったらかして通り過ぎた。他の人々と違って、サマリヤ人はその傷にほうたいをし必要な医薬を準備し、その後の世話をする為に宿屋に伴いました。彼の同情は救主の心を動かして次のように問わしめまし

た。〝この三人のうち誰が彼の隣人になったと思うか〟（ルカ一〇・三〇―三七参照）

天なる父に私たちの愛を示しその祝福を受ける最上の道は、疑いもなく、お互に愛し合い奉仕し合うことであります。真の喜びと達成及び個人的な成功は、無私の奉仕を通じてもたらされるのであります、曾て或人が言いました。〝人は丁度その友の福祉の為に働らいた程度に応じて成功し、偉大となる〟この考えの強調していることは働らくことその行為であります。箱の中にかぎかけられたパンが人の体を養わないと同様に、愛は表現されることなくして人の心を暖めることは出来ないのであります。

隣人の為には、単に思い又は祈るだけよりも行為が大切であるということが次の詩に美しく画かれて居ります。

〝一日の始めに私は跪いて祈ります
「おお神よ、すべての人を祝福したまえ
悔める者の心を慰め
病める人を医したまえ」
そこで私は立上って一日の生活に向います
そしてあさはかにも我が道を進みます
私は重荷を負って道行く人に援助の手も差伸べず
隣に住んでいる病める人をも見舞はず
日が暮れると再び祈ります
「おお神よ、すべての人を祝福したまえ」
けれども私が祈っているとはっきりと声が響いて来ます
その声は私に聞きなさい、そして考えなさいと命じて居ります
「貴方が祈る時貴方の良心に問いなさい
今日、貴方はどんなよいことをしたであろうか？」と
神の最上の祝福は、重荷を負える人を授けた人に考えられるのです〟（匿名）

この複雑化した今日の世の中に於ては、相互依存の関係が益々強くなって来て居ります。私たちの生活が専門化すればする程、他人の奉仕に依存する度合いが増えて来ます。つまり私たちはお互に関心を持たねばならないのです。私たちはお互に相手を必要とし又自分が必要とされていると云うことの確信とそれからもたらされる安心感を必要としているのであります。私たちは皆友人又は隣人の暖い思いやりに飢えているのです。

他人の福祉に就て心からなる関心を持つことはこの世的な品物を与えるよりも意義があります。私たちがほんとに他人に関心を持つなら彼を自覚させ彼が大切な人であって、必要とされていることを感じさせるようにします。

私たちは彼を気高く努力するように励まし常に私たちの友情と信頼を確信させるようにします。誰かが言いました〝この世の中にパンに飢えている人よりも、親切、同情、友情、愛に飢えている人が遙かに多い〟と。

今日私たちは親切な言葉を使い、感謝の言葉を記し、他人がなした善いことをほめ、他人の努力を認めるように決心しましょう。

毎日私たちが他人の仕合せに就て関心を示す機会が無数にあります。

〝私はこの道を只一度しか通過しません。ですから私の出来るどんなよい事でも又私の示せるどんな親切さも、只今、為すようにしましょう。私はそれを延期したり無視したりすることないようにしましょう。私は二度とこの道を通らないのですから〟（匿名）

私たちの個人的な魅力が
私たちの家族の幸福に及ぼす効果

<東京西支部の台所>

仕事会

（千九百六十四年十二月の第二週）

考察その三

魅力ある人は幸福な拠である

誰でもが知っているように私たちの心の中にあることは外面に反映するものであります。又逆に言うとその外観は心の感じに影響を及ぼすものであります。私たちが起きた瞬間から夜寝る迄きちんとした服装をしていたら、私たちの確信は増大し、私たちの気持は晴々して、より効果的となり、幸福となります。私たちの家族にもそれが反映して確信と誇を持ちます。

きちんとしたお母さんの一日の開始も家族の態度に影響します。もしも彼女が起きるとすぐ服装を整え髪をとかしてきちんとすれば確乎たる一日が始まるのであります。彼女は先頭に立っていることに於て気持よくなり家族も又そのように感じるのです。そのような家庭では幸福は昇る大陽と共にあるのであります。

（クリップ、長衣、寝室スリッパは出来るだけ少く用いた方がよい。）

魅力は清潔に始まります。個人的な習慣は水道施設その他によって国によって異なって居ります。けれども清潔は根本的なものであり、どんなことがあっても達成されねばなりません。屢々入浴することは体を清く新鮮に保つばかりでなく心を明るくし、疲れを休めます。

衣服も又新鮮に清潔を保たねばなりません。白カラー白手袋スカーフ及び下着はしみのないようによく洗濯されていなければなりません。洋服はよくプレスされ靴はみがかれすべてのものはよくつくろわれて居られねばなりません。

母親たちは主婦として、女主人公として又母親として、それぞれの役割の為に適切な衣類を持たねばなりません。この衣類に関しても、すべてのことと同様にお母さんが子供たちのものを用意する為に、無しですまし（彼女はよくそうする）ますがそのバランスに注意しなければなりません。彼女は家族の者が彼女の姿を誇りとするに足るだけの自身の服装に注意せねばなりません。家族の者たちは特別な服装などを、無しですませてお互に財源を分ち合うことを学ぶべきであります。

主婦たちは平常の衣服穿物の計画に当って社交上のそれと同様の注意を払うべきであります。気持のよいよく足にあった靴は主婦に元気をつけ作業の能率を高めます。簡単でゆとりのある衣服は洗濯アイロンが容易であるばかりでなく、動作の伸縮が自由になります。衣裳棚には、外出用、買物用、又図書館行きお使い用など適当な衣服を揃えるべきであります。

私たちが常に気持よく幸福であり（家族も同様）それが表情に現われることは大切なことであります。私たちが家を出る時、何時でも人に歓迎される姿、表情でなければなりません。これは扶助協会の集会、その他の活動教会機能に適切な服装をすることにも適用されます。教会は母親や娘さんたちが守るべき服装の標準を定めました。一九六二年十月の大会で、ジョセフ・フィールディング・スミス会長及びマーク・イー・ピーターセン長老によって標準服装に関し扶助協会に忠告が与えられました。

スミス会長は次のように忠告しています。

〝末日聖徒は世の流行及び慎みのない傾向を追うべきではありません。私たちは主の民であります。主は私たちが、清い道徳的な生活をするように、又清潔な思想、精神を以て、すべての誡命を守ることに忠実であるように期待して居ります。どうして私たちは世に従わねばならないでしょうか。どうして私たちは慎み深く在ることが出来ないのですか。どうして主が私たちにさせようとすることが出来ないのですか？

ピーターセン長老は宣言しました。

〝イスラエルの母親たちよ、私たちがその服装に於て慎みを忘れ、世俗に従う時、それだけ若い世代の道徳破壊の支払いをせねばならないでしょう〟

特に基準となる清潔な服装をすることによって、私そちは模範を示し、それが隣人の習慣を変え、ひいては社会の風紀を善良なものに改め、健全な国民を育成し、その良風を世界に発揚することが出来るのであります。

愛すべきお母さんや、おばあさんは家族が来る前に彼女自身を美しくするように特に努めます。子供たちが一日中足もとにまつろっていたとしても、清潔に洗ってきちんとして帰って来る家族を迎えるべきであります。このことは子供たちの記憶に気持のよい印象として残り、又家に帰る夫に魅力的な絵となるのであります。

家族の者が誇り得るような容姿を保ちましょう。要するに私たちは目覚めている時間の大部分は家庭に居るので最上の処とせねばなりません。ここが世界で最も大切な人、私たちの家族が私たちに逢う処であります。

文学としての聖書——第三課

聖書は何であるか

（扶助協会レッスン文学 1964年12月第3回目の集りに）

クラスの指導者は、このレッスンで聖書は単に文学として見られているだけであって、神学上の疑問を解こうとしている計画はすこしもないことをいつも念頭に置かなくてはならない。

目的—聖書が一体となった文学として徐々に発展して行った興味のある段階を示す。

㈠聖書が発展して現在のような書物となったもとの古い書物。

聖書は徐々に成長して現在のような形になったものですが、その成長と聖書の起りとをたずねるのは興味のある話であります。聖書は大ていの本のように一人の著者が数か月もしくは数年かかってあらわしたものではなくて、多くの著者が長い長い間かかってあらわした書物の集りであります。聖書は高遠な洞察力と霊感とをもった人々がいろいろな時代にあらわしたヘブライ民族の宗教記録でありますが、これはひとりヘブライ民族のためだけでなく、まことにあらゆる時代の人々のためにあらわされたものであります。聖書はそれで、広い範囲と影響力とをもっているからどのような国民的叙事詩もおよばない深い意義をもった文学になるのであります。

一冊の完全な本として聖書はまことに変った本であります。それはふつうの意味で言うところの歴史書ではなくて、「神の選民」（ヘブライ民族）の宗教的自叙伝であります。聖書は「神の選民」（ヘブライ民族）の宗教生活をえがいている高尚な文学上の形式、詩、劇、評論、予言などを織りなす一種の結合組織としてはたらく歴史の骨組をもっているのでまったく独特な形をもっています。

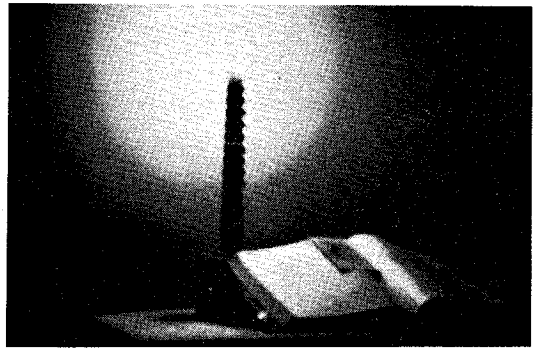
近代の人々はいろいろな書物を読むとき、印刷術の知れていなかったずっと前に、世界最大の文学書のいくつかがすでに存在していたことを知っておどろくのであります。これは聖書についても本当であります。聖書の最も古い原本は、現在オックスフォード図書館にある「ベイオウルフ」（八世紀ごろの英語の叙事詩）のように美しく色つけのかざりをしたものもある写本であります。印刷の技術は第十五世紀に始めて発明されたので、聖書は印刷された書物としてあらわれる以前にはるか昔からあったことがわかります。

㈡重要な聖書写本。

現在、紀元三百二十五年から十三世紀にわたっていろいろな時代につくられた三千種以上の聖書写本があります。これらの写本は、

いま世界の大図書館の中で貴重な（風俗、信仰、時代などの）遺物と共に大切に保存されています。これらの写本は一つも完全なものはありませんが、それでも約三十種は数頁不完全なところがあるだけで旧新約聖書にあるすべての書を含んでいます。しかしながら、これらの古い写本のうち大多数のものは聖書の少部分を含んでいるにすぎません。

以上の古写本のうち三種類がひじょうに大切であります。というのはそれらがみなひじょうに古いものであるからです。もともとこれらの三種類の写本は、七十人（実際は七十二人）の翻訳者がヘブライ語から翻訳した「七十人訳」と言われるギリシャ語聖書（旧新約聖書）を含んでいました。その一は、三種類のうち一番古い「ヴァチカン写本」であって、かってギリシャの司祭ベッサリオンの所有であったが紀元三百二十五年まで多くの学者のものになっていました。そののち五百年間ローマ法王庁（ヴァチカン）の中で油断なく注意をして守られてきましたが、ドイツの学者チッシェンドルフが何度も失敗をした末、ついにその写本の研究をゆるされた千八百六十六年まで完全な写本は世界の人々に与えられませんでした。しかし、このような次第でこの埋もれた宝は世に出たのでありました。



三種の貴重な写本の第二は「アレキサンドリヤ写本」であります。それはエジプトで発見されたものであって、今大英博物館へ行けば見られると思います。それは千六百二十八年コンスタンチノープルの大長老がアレキサンドリヤからもってきて、チャールス一世に奉呈したものであります。それは紀元四世紀に、富貴な家柄の一クリスチャン婦人であるテクラという人が写したと思われています。これは一冊の大きな本になっている「ヴァチカン写本」とちがって四冊から成って居り、そのうち三冊が旧約聖書、一冊が新約聖書であります。

第三の、しかも三種類の重要な写本のうち最も興味のある写本は「シナイ写本」と言われているものです。この写本（が一度失なわれた）のを取り返した物語はほんとうに一篇の小説であります。この物語の主人公は「ヴァチカン写本」を発表した（と同じドイツの学者）チッシェンドルフであります。千八百四十四年チッシェンドルフ博士は古文書を探し求めて東洋の各所を旅行していました。そして、シナイ山のふもとにあるセント・カタリナ修道院をおとずれた際、火をもやすためにすてたと思われる古い羊皮紙が、一ぱいつめてあるかごに気がつきました。そして、これをしらべ始めると博士がひじょうに喜んだことに、それらが「七十人訳聖書」のひじょうに古い写本の断片であることがわかりました。そこで許しを得て四十枚だけをもらい受けましたが、（その断片がひじょうに貴重なものだけに、もらい受ける特権を与えられてうれしいと）その特権をよろこぶ喜びを言いあらわしたとき、それ以上はあげられませんとことわられました。そこで博

士がぜひもらい受けたいと熱心にたのめばたのむほど、修道僧はかたくなになって言うことをきいてくれませんでした。

ドイツ人の学者が重要な発見をしたということが英国に知れるや否や、英国政府はその失なわれた写本を手に入れるために専門の捜索者を送りました。しかしこれらの人々はその探索に失敗しましたけれども、ドイツ人の学者チッシェンドルフ博士はなおその努力をあきらめず、千八百五十三年ふたたび東洋の地をおとずれました。しかし博士は自分の欲しがっている写本のゆくえをすこしも見つけることができませんでした。それにもかかわらず、博士はすこしもあきらめずに、千八百五十九年またも砂漠の中にあるあの修道院をおとずれました。

それでもまだ博士の努力は役に立たなかったようでありました。そしてもう一度失望して戻りかけました。ところが、本国へ旅立つ前の夜のこと、その僧院の管理人が博士に、わたしの部屋へおいでになりませんかと言いました。そして、二人きりになると彼は博士にむかって「わたしも、あなたが探していらっしゃる本をいつか読んだことがありますよ」と言いました。そして、博士が驚いたり喜んだりしたことに、その男は博士の手の中にあの貴重な羊皮紙（の写本）を置いたのでありました。博士は十五年以前にくずかごの中で見た断片を得たばかりでなく、旧約聖書のその他の部分も、新約聖書の全部も、得たのでありました。

博士は、今度は自分の熱望と喜びとを面にあらわすのをおさえてその宝を自分の部屋へもちこむことをゆるされました。そして一人になるともう一度おどり上って喜びました。そして、その本を写し始め、徹夜をして全部を写し終りました。

それから後に、いく度も交渉をした末この写本はセント・ピータースブルグ（現今のレーニングラード）の図書館に納められ、チッシェンドルフ博士はその助手と一しょになって、その写本の複写版をつくることをゆるされました。千八百六十三年ロシアの皇帝はその複写版を世界中のキリスト教国にある大図書館に寄贈しました。

㈢聖書の名高い翻訳書

聖書はこれまでに四百六十の国語や方言に翻訳されていて、二つのおもな古代語訳は、前もすでに述べたギリシャ語の「七十人訳聖書」とラテン語の「ヴルガタ聖書」であります。そして「七十人訳聖書」の方は、現在存在している翻訳聖書のうちで一番古いものであって、ローマの各地方やパレスチナはもちろん「七十人訳」の発祥地であるエジプトでもキリストの時代に広く用いられたので、新約聖書の言語や文体にいちじるしい影響を与えました。新約聖書に見られる引用句は、ヘブライ語の旧約聖書よりも、このギリシャ語の「七十人訳」旧約聖書の方からたくさん引いてあります。このことによってイエスとお弟子たちが「七十人訳聖書」に通じていたことがわかります。

ユダヤの記録によると「七十人訳聖書」は次のようにしてできました。紀元前二百八十五年から二百四十七年にかけてエジプトを支配していたプトレミー・フィラデルファスは、ユダヤの律法を翻訳してこれをアレキサンドリヤの王室図書館におさめるため、ユダヤの律法書を一部もたせて、七十二人の選ばれた人々を自分のところへ送るようエルサレムの大祭司に要求しました。これらの人々がもってきた律法の書は、羊皮紙の上に黄金の文字を書いたものでありました。そして、これらの学者は王からたいへん尊敬されて、翻訳をするに必要な七十二日の間アレキサンドリヤの港にある一つの島の上にある壮大な邸に宿ることに

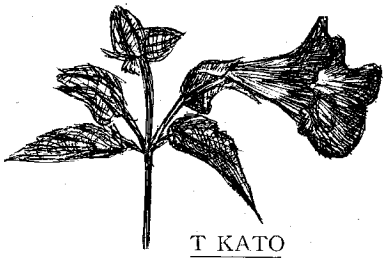
なりました。伝説によると、この学者の一人一人は別々の個室に入れられてお互いに話し合うことはできませんでした。それでも翻訳が終ってみると、みんな同じ翻訳ができ上っていました。こういうわけでこの「七十人訳聖書」は霊感によってできたものと信じられました。

「ヴルガタ」というラテン語訳の聖書は西ヨーロッパの聖書に大きな影響を与えました。「ヴルガタ」または「ヴァルゲート」には「普通」とか「一般に用いられる」とかいう意味があります。この「ヴルガタ」聖書は法王ダマサスが出版したものであって、当時はいろいろなラテン語訳聖書がまちがいだらけになっていたので、紀元四世紀に大学者セント・ジェロームに翻訳をたのんだのであります。その翻訳は紀元四百五年に完成し、それから徐々に人々に好まれるようになりました。これを翻訳したジェロームが世を去ってから約二百年後に、とうとう、この「ヴルガタ」聖書は、一般に認められた教会の聖書となり、千五百四十六年にはローマ・カトリック教会の公認聖書となって今に至っています。しかし現在ヨーロッパ各国ではこの「ヴルガタ」聖書のかわりにほかの翻訳書（聖書）が用いられています。

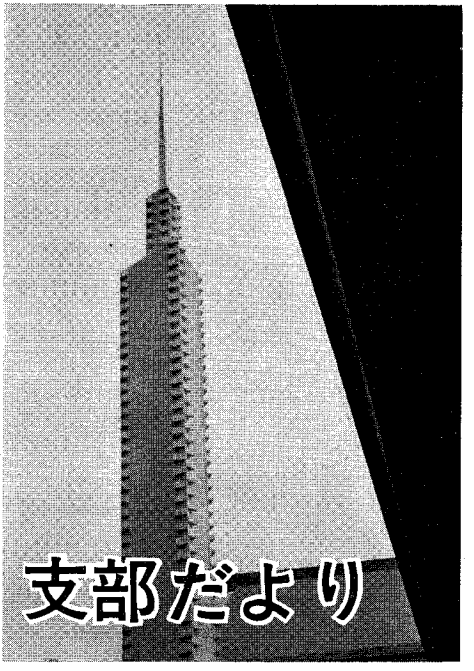
千五百二十五年以来今になるまで多くの英語訳聖書が出版されました。わが教会が四標準聖典の一つとして採用している欽定訳（ゼームス王の勅命による翻訳）聖書は、その学識のしっかりしていることと精神のはばの広さ、とことば使いの美しさと相まってどのような英語訳聖書も肩をならべることのできない最も重要な聖書であります。

レッスンの助け。

(一)今日あなたの国で行なわれているいろいろちがった聖書の解釈について討論して下さい。



T KATO



た。

日本は現在、非常に恵まれた状態です。私たちは教会堂が与えられるお礼に全国の兄弟たちに言いたい。どうぞ建築宣教師になって下さい。あなたの手によって、神様の宮が建つのです。そしてそれによって愛と信仰と奉仕の精神は非常に強く養われ、そして、そこから未来の立派な夫が生れるのです。どうぞ兄弟たち、教会堂の建築に自らの手を持って参加して下さい。

MIA

○七月二十三日、開拓者記念日で演劇、リヤホナを行いました。演劇に関してはベテランの、石川、大橋両長老を始め、萩本支部長、北沢、笹井姉妹の出演で、今まで群馬では見たことのないような、すばらしい劇を見、開拓者についての知識を深めました。

○八月十三日は水と遊ぼうと題して水泳。

群馬のカッパたちと泳いだり、水球をしたり、八時半頃までの二時間ぐらい、時間も忘

群馬支部

高崎の秋は非常に静かです。これと云って観光資源のない高崎市自身は、登山客などの多い群馬県の、その玄関口として、観光客を見守る所です。又高崎は、東京の衛生都市として、長野・新潟への玄関口でもあります。

その私たちの街に今、教会堂は誇らかに建築が進んでいます。現在、建築宣教師は四人です。現在日本には五つの教会堂の建築が進められています。沖縄の那覇にも始まりまし

れて水と遊んでいました。
○八月二十日はフルーツバスケット・電報ゲーム・ハンケチ結び、そして大きな紙に一人十秒づつ絵を書いていって、最後に一つの紙にするゲームなどをしました。
○八月二十七日の今年最後のＭＩＡは、ダンスの夕べ。招待券を発行して、宣伝を二週間前からしたかいがあって沢山の兄弟、姉妹、お友たちが集まりました。そして群馬支部の定評のあるソーシャルダンス・フォークダンスを集まった沢山の人々と行いました。この日は私たちのためにハワイアンバンドが無料で出演してくれました。
また新しい一年間、すばらしいＭＩＡにするために頑張りましょう。（小野寺記）

旭川支部

全国の兄弟姉妹、今日は。旭川支部からお便りします。九月の声を聞くといくらか涼しくなりましたね、と普通は言うのですけれど今年の旭川は暑い！　と感じた日が何日あっただろうかと思うくらい涼しい夏でした。それも八月の終りになるとガッタリと寒くなって、夏が来るのが遅いのに秋だけは一番早く来てしまいます。でもいつまでもガッカリしていられません。食欲の秋ですからモリモリ食べてモリモリ働らかなくてはなりません。では六月の支部大会で支持された組織の残りをお知らせします。

日曜学校会長	山田次美
第一副会長	木谷正尚
第二副会長	伊藤栄一
書記	佐々木毬子
書記補助	山口令美
オルガニスト	鈴木美代子
指揮者	狩野昌子
子供日曜学校責任者	浜口和子
書記	沢田扶三子
ＹＭＭＩＡ会長	横井秀二
第一副会長	三戸誠
第二副会長	清水紀行
ＹＷＭＩＡ会長	長瀬美津子
第一副会長	神野豊子
第二副会長	太田悦子
書記	狩野昌子
歓迎委員会委員長	長瀬美津子
副委員長	三上道子
聖徒の道委員長	三浦ルイ子
コーラス委員長	水谷裕子
委員	山田郁子
〃	鈴木美代子
書記	狩野昌子
美化委員会委員長	道川忠俊
第一副委員長	三浦ルイ子
第二副委員長	佐々木毬子
書記	白井昭子
系図委員会委員長	大田原雅稔
第一副委員長	近藤澄子
第二副委員長	大田原秀子
書記	安田道子

以上です。
又、昨年から一年間地方部宣教師として伝道して下さった山地姉妹、島崎姉妹、三浦姉妹、長瀬姉妹が一年間の御奉仕に感謝されつつ解任され、新しく笹本姉妹、田中姉妹の一組の地方部宣教師が誕生しました。笹本靖子姉妹は一九六二年にバプテスマを受け、その後の日曜学校書記、ＭＩＡ教師、フェローシッピング副委員などを経て、現在に至りました。又、田中静穂姉妹は一九六〇年にバプテスマを受け子供日曜学校書記、責任者、扶助協会会長等を経て現在の責任を受けました。これらの姉妹は〝火花が散ってる〟というような言葉が出るくらい、口と体が良く動きます。七月の終りから八月の始めにかけての福

音研究特別集会は盛況の中に終ることが出来ました。最後の日である八月八日の反省会を兼ねたパーティーでは各々の感想と講師となって下さった地方部の三人の兄弟たちに感謝の言葉を述べて楽しい夕べを過すことが出来ました。この集会によって、会員たちは今までよりももっと進歩し証詞を強めることが出来たことと思います。又、北海道地方部では地方部の計画として伝道ゼミナーを開始しました。九月一日から毎週火曜日、六週間に亘って宣教師が教師となり会員たちを集めて特別レッスンを行い、それらの会員たちに求道者を紹介してもらう仕組です。これは全国でも始めてのことですので成功するか、失敗するかはわかりません。でもこれらのもとはすべて宣教師の上に又、会員一人一人の上にあるのですから責任重大ですし、やりがいのある仕事だとも思います。私たちは一生懸命努力して成功を信じながら進みますから各支部の皆さんオーエンして下さいね。（聖徒の道委員　田中静穂姉妹記）

西宮支部

秋風に乗せられて庭の金木犀の甘い香りが部屋一杯に漂い、又、主の御霊に満されて今日の安息日の各集会はとても気持の良いものでした。

全国の兄弟姉妹はお元気で信仰生活を送っていらっしゃることと思います。

何をするにも絶好の季節となり、各支部の皆様と同様に西宮の会員達も張切っています。

その表われとして、九月二十三日の休日に畳干しを始めとして教会堂の大掃除を行いました。生憎の曇空ではありましたが、二十人もの兄弟姉妹が姿も勇ましく、私達の家を清めんと集合致しました。何しろ五年間もの畳のほこりを取るのは大変でしたが、日頃よりご信頼申し上げております兄弟達はこの日も姉妹達の期待を裏切ることなく働いて下さいました。そして、姉妹達も扶助協会で鍛えた腕を発揮して舌もとろけそうなおにぎりを作り、お昼には神田兄弟の祝福で仲よくこのおにぎりをいただきました。

日頃のお掃除では手の届かない松の木の刈込みも、農学校を出ておられる安芸兄弟のご指導によってしろうととは思えない程立派に（でもちっと涼しすぎるかな）散髪出来ました。木に登った兄弟達を口ではひやかしながらも心の中で感謝していた姉妹は私一人ではなかったでしょう。

広い庭の掃除も済み集まったごみと落葉を焼く煙が夕暮の空に漂い始めると、さすがはモルモンの兄弟姉妹疲れの色も見せず卓球に打興じ、又、落葉とごみを焼いた灰から取り出された〝焼いも〟で秋の味覚を満喫し、空腹を満し、楽しい夕べの一時を過しました。

帰り道は清々しい気持で足取りも軽く、疲れ等全然感じられませんでした。

各支部の兄弟姉妹、この恵まれたすばらしい季節を主の為に有意義に過したいものですね。

次の便りはホット・ホット・ニュースをお送り致します。では又、さようなら。

宮本姉妹

伝道本部だより

バプテスマ　一九六四年八月

旭川
工藤俊子
高橋正勝
脇俊明
渡辺賢一
山田かをる
横関美智子

福岡
馬場美恵子
楠本武司
小樽直明

群馬
新井文子
若井まさ子

広島
井上明美
能地秀樹

金沢
小林久夫

甲府
河西百合子
内藤まさ子
大沼洋子
竹野数馬

京都
丸山克子

室蘭
葛西節子
鈴木正年

新潟
伊藤正利

西宮
栗山洋子
丸山茅生
三浦長敏

岡町
荒木久美子
中尾信一郎
浪江克尚
鳥居恵美子
塚本順子
山田八重子
吉野恵子

岡山
黒崎あや子
松浦健司

小樽
河原千佳子

札幌
福原謙
佐々木孝則
萩原邦雄
高橋恂子
伊藤博文

仙台
鬼宗久
菊地嘉昭
菅野二郎
斎藤孝一
斎藤真

東京中央
荒捷彦
平野弓子

城所黎子
毛綱敏子
大城好子
佐々木和子
清野良憲
関義博
園田研治

東京東
井上みちよ

東京北
岩崎道明
浦田はる子
勝野美栄子
牧野幸子
蒔田昌代
水田美智子
斎藤とら
渋谷秀雄
徳永健
富坂千栄子

東京南
秋山栄子
中城英徳
小川ヒサ子
白崎英子
山川洋

東京西
葉山昭子
広幡弓月
保立俊文
今西光枝
酒井福子
桜井光之
清水信夫
上山晴子
吉田完一

横浜
二見勝
井次郎
熊木隆之

松下順子
溝辺公人
森島道郎
守屋よし江
守屋洋子
永野間宣久
斎内直久
沖田毅
斎藤良安
佐久間淑江
鈴木悦子
滝口三千代
竹内忠成
山田秀子

那覇
宮城敏子

普天間
仲間央子

三宮
稲垣行政

柏木富士男
河内猛

神権

常深恵子
上田瑞穂
山野裕秀

旭川

横井秀二（祭）

福岡

浅井英雄
福井治男
岩本和男

石原道生（長）
新村誠之助（長）

広島

溝口和子
田口政宏

上西国隆（長）

金沢

渡辺勝美（長）

甲府

笠井秀明（長）

岡町

秋山義明（長）
前野元紀（長）
種谷紀昭（長）
富岡利晁（長）

小樽

潟沼サチヒロ（長）

三宮

荒木宣勝（長）
オリト クミツグ（長）
タルモト マサヒロ（長）
ヨコヤマ トシカズ（長）

東京中央

浅川一洋（長）
河合富夫（長）
門田善太郎（長）
山中健次（長）

東京東

松岡忠（長）
重山義雄（長）

東京北

佐藤博省（長）

那覇

JAHNA YOSHIYASO（長）

▽編集後記△

○「聖徒の道」の編集をはじめてから十一月号は二冊目である。

十月号は前編集員の小林兄弟から引き継いだばかりでとまどいを感じました。

もう早いもので二冊目の十一月号をみなさんのおてもとに届けることになりました。

十一月号は写真をいつもより多く使ってみました。写真は東地方部大会での写真を中心に誌面に掲載しました。

これからも「聖徒の道」に全国の兄弟姉妹の写真を載せて行きたいと思います。

簡単な説明を添え編集部の方までお送り下さい。

○今十一号には英会話のページを都合により載せることが出来ませんでしたが、去年の十一月号を使用して下さい。

また英会話のページについて御要望がありましたら編集部の方までお送り下さい。

（松浦）

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経　上質革製合本……1100円
教義と聖約
高価なる真珠　合本……300円
モルモン経（新訳）……300円
信仰箇条の研究……330円
モルモンとは？（新版）……150円
総合聖句の手引……150円
日本系図探究要覧……100円
アロン神権者用学科課程……150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
「モルモン経の読み方の手引」……200円
ナザレのイエス……100円
正しい日本史……100円
家督権の祝福……100円
料理の作り方……50円
求道者教育法……120円
神の王国……230円
基督・イエス……300円

日曜学校用

モルモン経物語……150円
旧約聖書物語……150円
家族の昇栄……200円
福音の実践……200円
奇しきみわざ(上)(下)……200円
我等の標準聖典……200円
古代の使徒……150円
シオン山の救い手たち……200円
教義と聖約の教え……200円

MIA用

我ら指導者のことば……200円
我らは信じる……200円
我らは奉仕する（1965年度テキスト）……150円
生活の目標……150円
今日の十誡（1965年度テキスト）……250円
MIA・エンサイン・ローレルの手引……150円
演説が上手になる法……150円
素晴しき考え……200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……400円
レクリェーション歌集……400円

……注文は各支部長へ……

THE SEITO NO MICHI
Volume 8, November 1964, Number 11
THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
NORTHERN FAR EAST MISSION
14 Azabuhiroo-cho Minato-ku Tokyo Japan

支部所在地

北海道地方部

旭川　旭川市八条五丁目
MIA集会場　旭川公会堂
電話（二一一五四五）

室蘭　室蘭市幸町八九
電話（七〇五四）

小樽　小樽市富岡町一ノ三五
電話（二一八二二四）

札幌　札幌市北二条西二四丁目
電話（六三一七八六六）

東中央地方部

群馬　高崎市並榎町二七五

甲府　甲府市山田町六三

松本　松本市幸町三八四　百瀬方

新潟　新潟市中大畑町五五七
電話（二一八六六〇）

仙台　仙台市光禅寺通り二八
電話（二五一〇八九七）

東京中央　東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇八一三三〇七）

東京北　東京都中野区江原町一ノ八ノ十四

東京東　東京都江戸川区小岩町六一七八〇
電話（六五七一五二二三）

東京南　東京都大田区南千束町二四九
電話（七二九一六三一一）

東京西　東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七
ノ七
電話（二一六七六四）

山形　山形市七日町二丁目十二ノ二十三

横浜　横浜市港北区篠原町二九
電話（四九一八七七二）

西中央地方部

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話（六二一一八三二七）

福岡　福岡市浄水町四六

広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三
電話（三一一六一三五）

金沢　金沢市上胡桃町一一

京都　京都市左京区下鴨松原町四四

名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話（七三一四二一〇）

西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話（五一〇一四一）

岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話（二一一二三六）

岡山　岡山市北方七〇

三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話（八六一二六〇二）

柳井　山口県柳井市今市三九一

佐世保　長崎県佐世保市山手町
TAIKEI HOUSE CO., LTD.

沖縄地方部

普天間　沖縄宜野湾市野嵩区三二八

那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

建築部事務所

東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇二一四〇一〇）

聖徒の道

1964年11月1日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ダワエン・N・アンダーセン
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町14
印刷所　合名会社　三五堂

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）第八巻第十一号　一九六四年一月号

定価　八〇円